

平成 30 年度（2018 年度）

箕面子どもステップアップ調査結果報告
（その 1）

- 全国学力・学習状況調査
- 箕面市体力・運動能力・運動習慣等調査

平成 30 年（2018 年）11 月

箕面市教育委員会

目次

箕面子どもステップアップ調査の概要	1
-------------------	---

全国学力・学習状況調査の結果分析について

全国学力・学習状況調査について	7
平成30年度全国学力・学習状況調査＜概要＞	9
平成30年度全国学力・学習状況調査＜概要＞小学校国語AB	11
平成30年度全国学力・学習状況調査＜概要＞小学校算数AB	13
平成30年度全国学力・学習状況調査＜概要＞小学校理科	15
平成30年度全国学力・学習状況調査＜概要＞中学校国語AB	17
平成30年度全国学力・学習状況調査＜概要＞中学校数学AB	19
平成30年度全国学力・学習状況調査＜概要＞中学校理科	21
箕面市の児童生徒の「学習状況調査」結果から	23

体力・運動能力、運動習慣等調査の結果分析について

平成30年度箕面市体力・運動能力、運動習慣等調査	29
各種目結果の学年別経年比較	
1年（小1）	30
2年（小2）	31
3年（小3）	32
4年（小4）	33
5年（小5）	34
6年（小6）	35
7年（中1）	36
8年（中2）	37
9年（中3）	38
運動習慣等調査の結果から	39
箕面市体力・運動能力、運動習慣等調査　まとめ	41

箕面子どもステップアップ調査の概要

1 「箕面子どもステップアップ調査」とは

国には、

○全国学力・学習状況調査

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査

があります。

箕面市では、国の調査の他、独自に以下の調査を実施しています。

○箕面学力調査

○英検 IBA

○箕面市体力・運動能力、運動習慣等調査

○学習状況・生活状況調査

○学校生活アンケート

箕面市では、これら国の調査、箕面市独自調査のすべてを総称し、「子どもステップアップ調査」と呼んでいます。

箕面ステップアップ調査は、小中 9 年間を通して子どもたちの「学力・体力・豊かな心」をバランスよく育むため行うものです。

この調査により、毎年、子どもたち一人ひとりの各学年における学力・体力・生活の状況を把握・分析し、教員の指導力・授業力を高めるとともに、翌年度の各学年の指導・授業内容に反映させていくことにより、9 年間を通して継続的かつきめ細やかに子どもたちの総合力の育成を進めます。

		実施時期	1年生 (小1)	2年生 (小2)	3年生 (小3)	4年生 (小4)	5年生 (小5)	6年生 (小6)	7年生 (中1)	8年生 (中2)	9年生 (中3)
学力調査	全国学力 学習状況 調査	4月						● 国語 算数 理科			● 国語 算数 理科
	学力調査	12月	● 2教科	● 2教科	● 4教科	● 4教科	● 4教科	● 4教科	● 5教科	● 5教科	
	英検IBA	10月									●
体力調査 (★は全国調査に参加)		5～6月	● 3種目	● 3種目	● 3種目	● 5種目	●★ 8種目	● 8種目	● 8種目	●★ 8種目	● 8種目
生活 状況 調査	学習状況 生活状況調査	6月・12月									
	学校生活 アンケート	10月・2月	●	●	●	●	●	●	●	●	●

2 箕面子どもステップアップ調査内容

実 施 の 経 過

平成19年度から全校で始まった「全国学力・学習状況調査」は、平成22年度(2010 年度)・平成24年度(2012 年度)と抽出校で調査を実施しました。しかし、本市では抽出ではなく全校で取り組む必要があると考え、市として全校で調査を実施しました。

平成23年度(2011 年度)は、東日本大震災のため中止となりましたが、平成25年度(2013 年度)からは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、再度、国として全校で実施しました。今年度も引き続き、全校が参加する悉皆調査により実施しました。

調 査 の 目 的

- (1) 箕面市教育委員会は、市内の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校は、自校の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、児童生徒一人ひとりへの教育指導の充実や学習状況の改善などに活用する。
- (3) 箕面市教育委員会、学校は、上記(1)(2)の取組を通して、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

学 力 調 査

- ▼学年ごとに子どもたち一人ひとりの各教科の到達度を把握・分析し、子どもたち一人ひとりに応じた着実な学力の向上を図ります。
- ▼調査結果を活用し、各学年の年間指導計画を立て、継続性のある学習指導を行うとともに、教員の指導力・授業力の向上を図ります。

内 容

(1) 全国学力・学習状況調査

【6年生(小6)】 国語 A・B、算数 A・B、理科

【9年生(中3)】 国語 A・B、数学 A・B、理科

問題Aは、主に知識・理解に関する問題

問題Bは、主に活用に関する問題

(2) 箕面学力調査

【1～2年生(小1～小2)】 国語・算数

【3～6年生(小3～小6)】 国語・社会・算数・理科

【7～8年生(中1～中2)】 国語・社会・数学・理科・英語

なお、国語と英語は、リスニング(聞き取り)調査も実施

※各教科とも11月までに学習した範囲で、各学年における各科目の到達度を調査

(3) 英検 IBA

【9年生(中3)】 英検3級レベルを実施

体 力 調 査

▼子どもたち一人ひとりの発達段階に応じた基本的な運動能力を調査し、基礎体力の向上を図ります。

▼日頃の運動習慣等を把握し、学校での様々な取り組みにつなげるとともに、家庭や地域と連携して課題の改善を図ります。

内 容

(1) 箕面体力・運動能力調査……「全国体力・運動能力等調査」と同時に実施

◎調査種目

【1～3年生(小1～小3)】 立ち幅とび・50m 走・ソフトボール投げ

【4年生(小4)】 立ち幅とび・50m 走・ソフトボール投げ・反復横とび・20m シャトルラン

【5～9年生(小5～中3)】 立ち幅とび・50m 走・ソフトボール投げ(中学生はハンドボール投げ)・反復横とび・20m シャトルラン・握力・上体おこし・長座体前屈

(2) 運動習慣、生活習慣等に関するアンケート調査……全学年で実施

生 活 状 況 調 査

▼子どもたちの学習習慣、ご家庭や学校での生活状況をアンケート形式で調査し、自尊感情*などの向上及び学習課題や生活課題の改善を図ります。

内 容

- ・ 「自尊感情」等の自己認識、「規範意識」や「思いやり」等の社会性、学級環境、生活や学習の習慣等の調査
- ・ 「いじめ」に対する子どもたちの意識・状況も調査

※自尊感情…自分自身に対する肯定的な感情。自分で自分自身を価値ある存在だとする感情。

3 報告の概要

この報告は、ステップアップ調査のうち、4月の実施した全国学力・学習状況調査、及び5月から6月にかけて実施した箕面市体力・運動能力、運動習慣等調査の市全体の結果の概要です。

各学校では、それぞれに「全国学力・学習状況調査概要版」を作成し、保護者に報告します。

4 箕面市の指標と目標値、実施済みの一部結果

本市では、児童生徒一人ひとりの学力・体力・生活状況を継続的に把握し、教育指導の充実や学習状況・生活状況の改善にむけた取り組み結果の検証軸として、以下の指標と目標値を設定しています。

□

平成30年度(2018年度)の目標値と結果

1	全国学力・学習状況調査の結果		校種	学年	教科	目標値	箕面市	結果※				
	<指標> 全国学力・学習状況調査の学力調査の平均正答率 <目標値> 全国トップの都道府県の平均正答率を上回る。		小学校	6年	国語A	77.0	74.0	●				
					国語B	61.0	58.0	●				
					算数A	68.0	70.0	◎				
					算数B	59.0	59.0	◎				
					理科	66.0	63.0	●				
			中学校	3年	国語A	80.0	79.0	●				
					国語B	66.0	65.0	◎				
					数学A	72.0	73.0	◎				
					数学B	53.0	54.0	●				
理科					71.0	69.0	●					
学習状況・生活状況調査		校種	学年	目標値	箕面市	結果※						
<指標> 家庭学習の時間に関わる質問項目の回答結果 小学生：1時間以上 中学生：2時間以上		小学校	3年	45.3%	2学期に実施							
			4年	52.0%								
			5年	65.2%								
			6年	69.8%								
		中学校	1年	42.5%								
			2年	47.4%								
			3年	78.0%								
学習状況・生活状況調査		校種	学年	目標値	箕面市	結果※						
<指標> いじめのサインに関わる全質問項目の回答結果 (肯定的回答率)		小学校	1年		2学期に実施							
			2年									
			3年									
			4年									
			5年									
			6年									
			小学校平均				85.0%					
		中学校	1年									
			2年									
			3年									
			中学校平均				95.0%					
			学習状況・生活状況調査				校種	学年	目標値	箕面市	結果※	
			<指標> 自己肯定感に関わる全質問項目の回答結果 (肯定的回答率)				小学校	1年	①成功体験と自信 (小) 85.0以上 (中) 80.0以上 ②充実感と向上心 (小) 95.0以上 (中) 85.0以上 ③感動体験 (小) 75.0以上 (中) 70.0以上 ④他者からの評価 (小) 70.0以上 (中) 70.0以上	2学期に実施		
2年												
3年												
4年												
5年												
6年												
中学校	1年											
	2年											
	3年											

5	英検IBA	校種	学年		目標値	箕面市	結果※
	<指標> 英検3級程度の力	中学校	3年		80.0%	2学期に実施	
6	箕面市体力・運動能力、運動習慣等調査	校種	学年	平均超えの種目数 ／全種目数		達成率	結果※
	<指標> 全8種目それぞれの男女別学年平均値 <目標値> 全学年・全種目で全国平均値を上回る。 ■種目 (1)握力 (2)上体起こし (3)長座体前屈 (4)反復横とび (5)20mシャトルラン (6)50m走 (7)立ち幅とび (8)ボール投げ(小:ソフトボール 中:ハンドボール)	小学校	1年	0／6		0.0%	●
			2年	0／6		0.0%	●
			3年	0／6		0.0%	●
			4年	1／10		10.0%	●
			5年	1／16		6.3%	●
			6年	2／16		12.5%	●
	<目標値> 全学年・全種目で全国平均値を上回る。 ※男女別の集計ですので、各学年とも種目数は2倍 になっています。	中学校	1年	2／16		12.5%	●
			2年	1／16		6.3%	●
			3年	3／16		18.8%	●
7	学習状況・生活状況調査	校種	学年		目標値	箕面市	結果※
	<指標> 学級環境に関わる全質問項目の回答結果 (肯定的回答率)	小学校	1年		①学級の規範意識 (小)80.0以上 (中)75.0以上 ②学級の絆 (小)80.0以上 (中)75.0以上	2学期に実施	
			2年				
			3年				
			4年				
			5年				
			6年				
		中学校	1年				
			2年				
			3年				
8	学校生活適応状況調査	校種	学年		目標値	箕面市	結果※
	<指標> 全学年での不登校(傾向)児童・生徒の千人率	小学校	1年		0.6	年度末に集計	
			2年		2.8		
			3年		8.1		
			4年		4.2		
			5年		4.3		
			6年		4.7		
		中学校	1年		10.9		
			2年		26.2		
			3年		24.9		
平均値			9.6				

※ 結果の欄について、「◎」は目標達成、「●」は未達成を表しています。

■ 全国学力・学習状況調査の結果

【結果】

学力調査は、小学校6年生と中学校3年生を対象に国語、算数・数学、理科の3教科で行われ、それぞれ基礎的な知識を問う問題Aと、知識を活用する力を問う問題Bに分かれています。

小学校、中学校ともに、全ての教科で全国平均及び府内平均を上回る結果となりました。

【取組の経過】

調査ごとに結果を分析し公表してきました。分析で明らかになった課題については、各学校で子どもたちの実情に応じて取組を進めてきました。また、学力向上には、授業改善が不可欠であるとの考えのもと、平成25年度より秋田県由利本荘市と盛んに交流することで学んだことや、

授業研究を通して「箕面の授業の基本」を策定し、平成 26 年度から市内全校で実施しています。

【分析】

(1) 今年度の全国トップの都道府県と箕面市の全国学力調査の結果を比較すると、小学校では国語 B の「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む」の正答率が、10 ポイント以上、箕面市の子どもたちが低いという結果が見られました。また全ての問題の無回答率合計は 24.8% で、これは秋田県の約 2 倍にあたる数値でした。中学校では、「全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す」をはじめ話す・聞く能力を問う問題全てで秋田県の正答率を下回りました。これらのことから、小学校では読むこと・書くことに、中学校は話すこと・聞くことに課題があることがわかりました。自分の書きたいこと・話したいことを書く・話す活動だけでなく、目的や意図に沿って文章を書く活動や話す活動を日々の授業の中に積極的に取り入れていきます。

理科では、問題の多くで全国の正答率を上回っている一方で、小学校ではろ過の操作方法に関する問題、中学校ではガスバーナーの仕組みに関する問題の正答率がそれぞれ全国を下回りました。実験を通じた学習は、実験の手順をただ説明するのではなく、どうしてそのような手順なのかを実験の意味や器具の構造と合わせて指導していく必要があります。

(2) 調査結果の分析で明らかになった課題を焦点化し、その課題の解決のため具体的な目標を立て、達成のための指導内容や指導方法を全教職員で共有し、子どもたちの学力の状況をきめ細かく把握しつつ、日々の授業で継続的に地道な取組を進めていきます。

■ 体力・運動能力、運動習慣等調査の結果

【結果】

1 年生から 9 年生まで男女別で調査した種目の総数は、108 種目です。その内、全国平均を上回った種目数は 10 種目で、全体の 9% でした。全学年、全国平均を上回るという目標は、達成できませんでした。

【取組の経過】

本市の体力が全国を下回ることが明らかになったときから、体力向上にむけた計画を策定してきました。その一環として、体力向上用具の配布や体力向上ボランティアなどの取組も行ってきました。また、昨年度から体力向上モデル校を指定し、体力向上の取り組みを進めているところです。

【分析】

(1) 全体的に全国平均に比べて低い結果が見られました。中でも子どもが初めて実施した種目は、より低い傾向があり、様々な動きの経験が不足していることが考えられます。また、運動能力の向上には日常的に体を動かす習慣は大切ですが、体力調査と同時に実施した運動習慣調査で、本市の子どもたちは運動する機会が全国に比べて少ないことも明らかになっています。日常の運動時間が少ないことも体力向上につながらない要因の一つと考えられます。

(2) 学校では、体力向上に向けた行事や子どもたちの主体的なイベント等の活動も行われています。日々の体育の授業で、様々な運動を経験させたり運動量を確保したりするとともに、遊びの中でも体を動かしたいと思えるような運動への意欲を高め、行事やイベントとの関連を図ることで体力向上につなげていきます。また、体力向上モデル校の実践を各学校に広げていきます。

平成 30 年度(2018 年度)箕面子どもステップアップ調査 全 国 学 力 ・ 学 習 状 況 調 査 に つ い て

1 実施日

平成30年(2018 年)4月17日(火曜日)

2 調査対象

市内公立小学校6年生全児童及び、中学校3年生全生徒

3 調査内容

学力状況調査

学力状況調査(小学校6年生:国語A・B、算数A・B、理科)

学力状況調査(中学校3年生:国語A・B、数学A・B、理科)

問題Aは、主に知識・理解に関する問題

問題Bは、主に活用に関する問題

児童学習状況調査及び生徒学習状況調査

4 参加人数

小学校6年生:14校 1,340人

中学校3年生: 8校 1,132人 計2,472人

5 公表の目的

本市の教育及び教育施策における子どもの学力向上の取組の成果と課題をできるだけわかりやすく、市民や保護者へ説明することにより、地域・家庭の方々の学校教育への理解と信頼を得るとともに、子どもの学力向上に向けて連携した取組につなげる。

6 公表の方法

- (1) 本市の調査結果や分析結果については、平均正答率等を活用し文書等により説明する。
- (2) 個々の学校名を明らかにするなど、学校間の過度の競争等につながるおそれのある公表は行わない。
- (3) 各学校においては、自校の調査結果や分析結果を文書等により説明する。

7 公表の手段

- (1) 教育委員会
教育委員会ホームページ
- (2) 各学校
 - ①各校の実情に応じて「学校（学年）だより」などで説明
 - ②学校協議会、懇談会などで説明

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果

小学校

＜平均正答率の状況＞（ ）内の順位は、国が提供した整数の平均正答率から本市が導き出したもの。

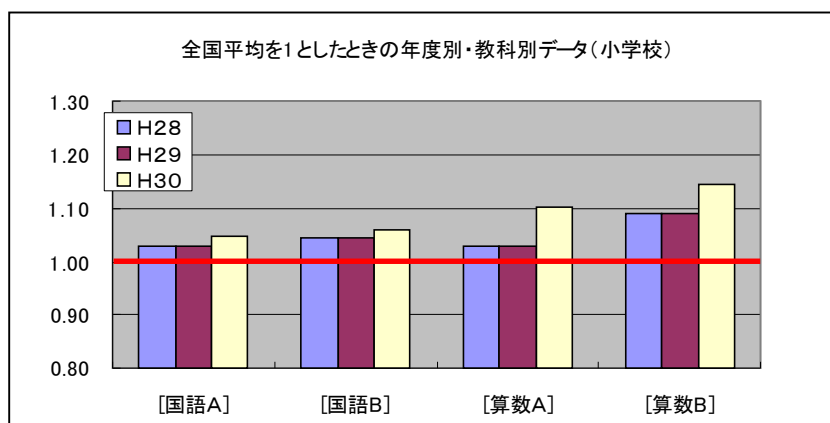
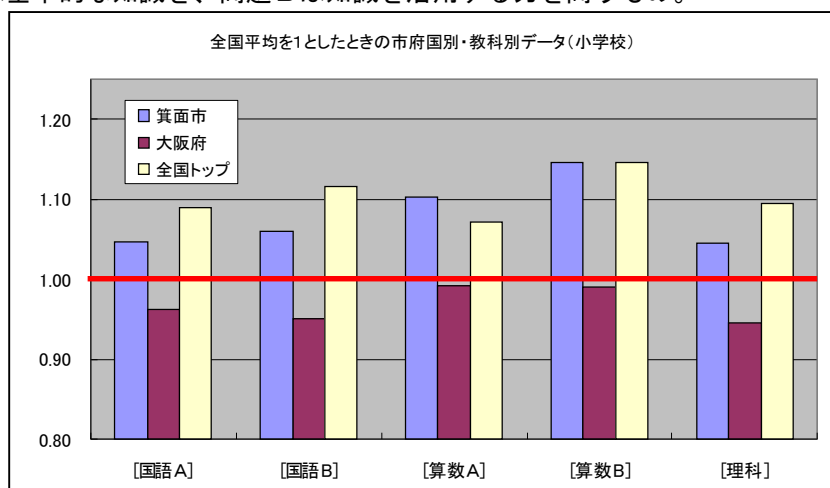
	[国語A]	[国語B]	[算数A]	[算数B]	[理科]
箕面市	74.0(5)	58.0(4)	70.0(1)	59.0(1)	63.0(5)
大阪府	68.0(43)	52.0(46)	63.0(21)	51.0(18)	57.0(47)
全国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3
都道府県全国トップ	77.0	61.0	68.0	59.0	66.0
都道府県名	秋田	秋田	石川	石川	秋田

＜全国平均を1としたときの市別・教科別データ＞

	[国語A]	[国語B]	[算数A]	[算数B]	[理科]
箕面市	1.05	1.06	1.10	1.15	1.04
大阪府	0.96	0.95	0.99	0.99	0.95
都道府県全国トップ	1.09	1.12	1.07	1.15	1.09
都道府県名	秋田	秋田	石川	石川	秋田
都道府県トップに対する割合	96.1	95.1	102.9	100.0	95.5

注1：箕面市欄の（ ）内は、全国都道府県に置き換えた場合の順位。全国は公立の平均。以下同じ。

注2：問題Aは基本的な知識を、問題Bは知識を活用する力を問うもの。



注3：理科は3年ごとに実施するため、年度別のデータは記載していない。

中学校 <平均正答率の状況> () 内の順位は、国が提供した整数の平均正答率から本市が導き出したもの。

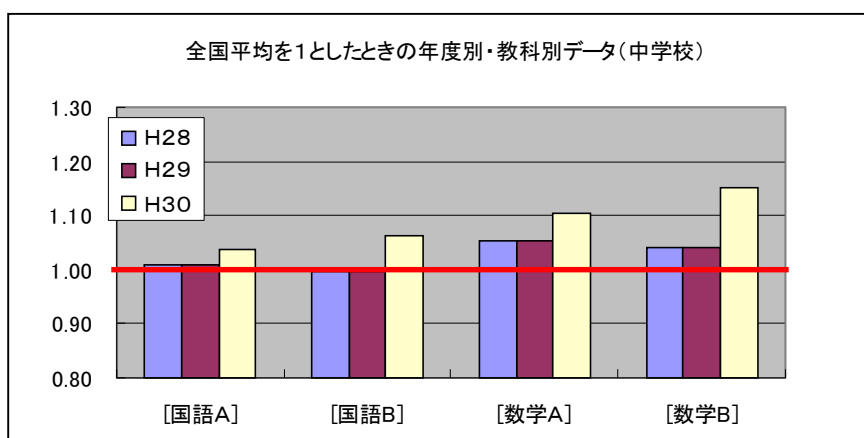
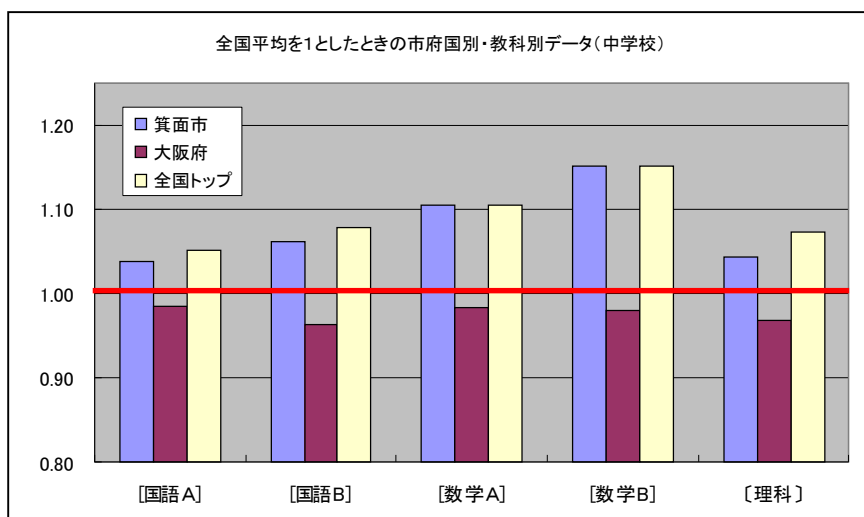
	[国語A]	[国語 B]	[数学A]	[数学 B]	[理科]
箕面市	79.0(2)	65.0(2)	73.0(1)	54.0(1)	69(5)
大阪府	75.0(35)	59.0(39)	65.0(28)	46.0(20)	64.0(42)
全国	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1
都道府県全国トップ	80.0	66.0	72.0	53.0	71.0
都道府県名	秋田	秋田	福井	福井	石川・福井

<全国平均を1としたときの市別・教科別データ>

	[国語A]	[国語 B]	[数学A]	[数学 B]	[理科]
箕面市	1.04	1.06	1.10	1.15	1.04
大阪府	0.99	0.96	0.98	0.98	0.97
全国トップ	1.05	1.08	1.10	1.15	1.07
都道府県名	秋田	秋田	福井	福井	石川・福井
全国トップに対する割合	98.8	98.5	100.0	100.0	97.2

注1：箕面市欄の()内は、全国都道府県に置き換えた場合の順位。全国は公立の平均。以下同じ。

注2：問題Aは基本的な知識を、問題Bは知識を活用する力を問うもの。

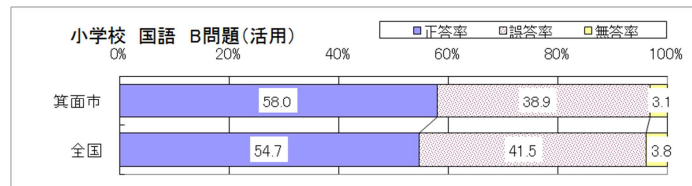
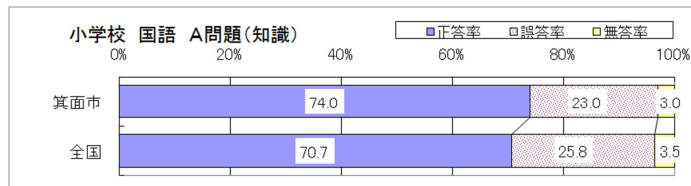


注3：理科は3年ごとに実施するため、年度別のデータは記載していない。

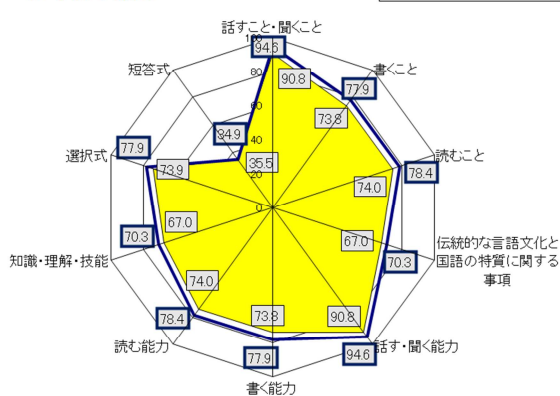
国語 A（主に「知識」に関する問題）

国語 B（主に「活用」に関する問題）

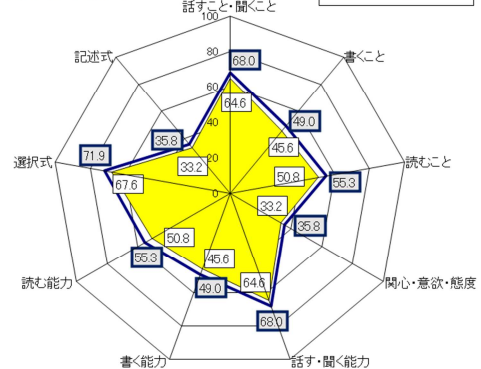
正答率

領域・観点
問題形式別正答率

【小学校 国語A】

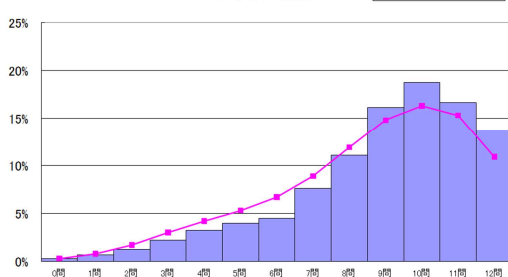


【小学校 国語B】

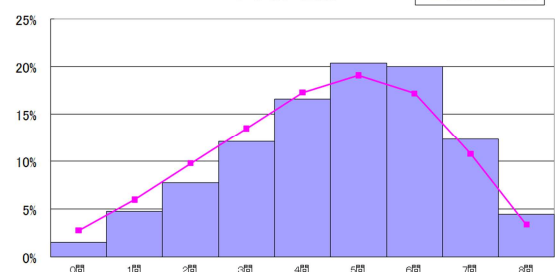


正答数分布

小学校 国語A



小学校 国語B



国語 AB から見えてくること

国語 AB とも問題全体では、全国の平均正答率を上回りました。国語Aはほとんどの領域・観点・問題形式で、国語Bは全ての領域・観点・問題形式で全国の平均正答率を上回っており、本市の状況は概ね良好です。

○昨年課題があった「書くこと」は、全ての問題において全国の平均正答率を上回りました。

○国語 A・Bともに「読むこと」において良好です。特に目的に応じて複数の本や文章などを選んで読む理由を問う問題では、全国の平均正答率を大きく上回り、無解答率においても全国の無回答率を下回りました。

△国語Aの「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の問題では8問中1問だけではあるものの、平均正答率が全国を下回るものがありました。文中の主語と述語との関係に注意し、誤った文を正しく書き換える問題に課題がありました。

△国語Bの「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる」問題では、全国の平均正答率を上回るものの、正答率が37%と低く、無回答率は6%と課題がありました。

→課題があった問題(裏面に記載)

国語B 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる問題

1

松山さんの手紙では、自分たちの言葉の使い方を直すために、立場を決めて話し合うことにしました。次は、そのときの「話し合いの様子の一部」です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【話し合いの様子の一部】

司会

自分たちの言葉の使い方を直すために、今日は「生活の中で使っている言葉はみだれているか」について、三人の代表の人に考えを発表してもらいます。そして、その意見をもとにして、自分はこの言葉を使うべきかについて全員で話し合い、考えていきましょう。それでは田中さんから、発表をお願いします。

田中

ぼくは、言葉はみだれていると思います。調べてみると、本来の意味とは異なる使われ方をしている言葉があるということが分かったからです。文化庁の「国語に関する世論調査」では、「役不足」という言葉について、「本人の力量に対して役目が軽すぎる」という本来の意味を選んだのは四十一・六パーセントでした。半数以上の人は、本来の意味とは異なる使われ方をしているのです。私も、言葉はみだれていると思います。なぜなら、言葉を省略して話す人が多いからです。例えば、「今年もよろしくお祈りします」を「こころよく」と言っていることがあります。省略すると相手や場に合っていない言葉になったり、意味が分からなくなったりすることがあると思います。

北川

私は、言葉はみだれていないと思います。例えば、「全然」は「全然ない」のように、あとに打ち消しの言葉がくるときに使うことが多いのですが、最近では、「全然いい」という使い方をする人もいます。また、辞書によると、あとにくるが打ち消しの言葉に限らない時期もあったそうです。このように、時代によって言葉の使われ方は変わるから、今まではどう使われ方だとしても、言葉がみだれているとは言えないと思います。

司会

ありがとうございます。それぞれの発表に対して質問はありませんか。

★木村

小池さんに質問があります。時代によって使われ方が変わった言葉は「全然」以外にどのようなものがありますか。

小池

例えば、「見れる」という言葉があると思います。私たちは「見ることができる」という意味で使っていますが、辞書には、本来は「見られる」と言うべきものと書かれていました。

司会

ここまで代表の人に考えを発表してもらいました。田中さんは、本来の意味とは異なる使われ方をしている言葉があるから言葉はみだれているという考え、北川さんは、言葉が省略して使われているから言葉はみだれていないという考えでした。三人の意見について、みなさんはどう考えますか。

金子

田中さんが話したように、ぼくも本来の意味とは異なる使われ方をしている言葉は確かに多いと思います。これから、よく使っている言葉でも、疑問をもったときは意味を調べてみたいと思います。

青木

本来の意味とは異なる使われ方をしている田中さんは言っていました。そのような使い方をしても、自分の思いが相手に伝わることはあると思います。相手の理解を確かめながら言葉を使っていることがいいと思います。

◇司会

金子さんや青木さんは、これから言葉をどのように使っていきたいかについて話していました。みなさんも、そのことについての自分の考えも話してください。

三

松山さんは、「話し合いの様子の一部」の□で、自分の考えを話します。あなたが松山さんなら、どのような考えを話しますか。その内容を、次の条件に合わせて書きましょう。

○

（条件）

○ □の金子さんや青木さんのように、代表で発表した北川さん、小池さんのいずれかの意見を取り上げ、その取り上げたことに対してどう考えるのかを書くこと。

○ ◇司会が話しているように、「これから言葉をどのように使っていきたいか」について書くこと。八十文字以上、百字以内にまとめて書くこと。

解答例

三

例

て	考	れ	省		※◆の印から書きましょう。どちらゆへて行を変えないで、続けて書きましょう。
い	え	か	略	北	
き	な	ら	し	川	
た	が	は	て	さん	
い	ら	、	話	が	
と	、	相	す	は	
思	言	手	人	話	
い	葉	や	は	した	
ま	を	場	確	た	
す	な	に	か	よう	
	る	合	に	に	
	べ	つ	多	、	
	く	い	と	わ	
	省	思	い	た	
	略	か	ま	し	
	せ	ど	す	も	
	ず	う	言	葉	
	に	か	を	を	
	使	を	こ		
	つ				

この問題の正答率は全国平均を上回ってはいるものの、37%しかなく、3人に1人程度しか正解していなかったんだ。
特に「これから言葉をどのように使っていきたいか」が書けていなかったり、「北川さん、小池さんの意見を取り上げ、それについてどう考えたか」が書けていないという誤答が多かったよ。



北川さん、小池さんの意見をしっかりと読み取り、自分の考えに合う方の意見をもとに自分の考えを整理して書くことが大切でござる。また、条件としてどのようなことが指定されているのかに注意することも大切なこととござるな。



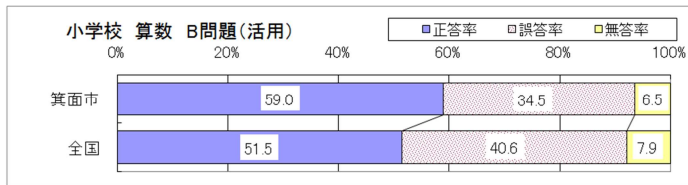
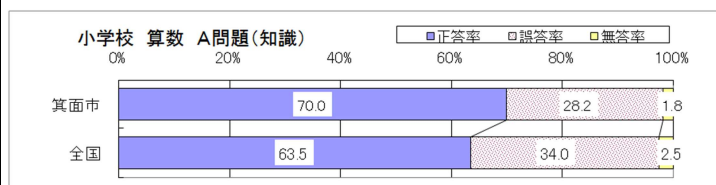
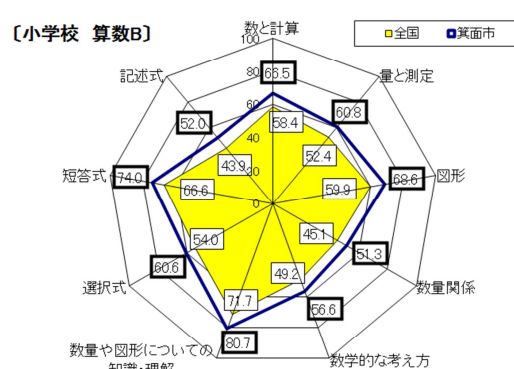
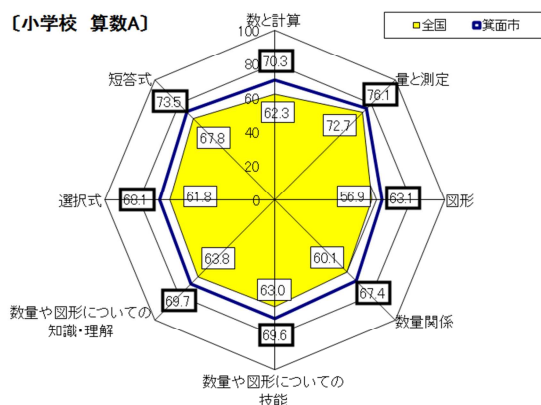
話の内容を明確に捉え、自分の意見と比べて書くために！

- ・この問題のように、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる力は日常生活でも大切です。
- ・この話し合いの様子をもとにした問題のように、提案者の意見を理解するだけではなく、自分の意見と同じ意見を提案しているのは誰か、どの部分において同じかなど、比べ、共通点や相違点、関連して考えたことなどを整理し、自分の考えをまとめる力と、指定された条件に沿ってまとめたことを表現する力が必要です。
- ・本や新聞を読むときや日常での会話において、事実と感想、意見などを区別するとともに、自分の考えや意見も関連させながら読んだり話したりするようにしましょう。

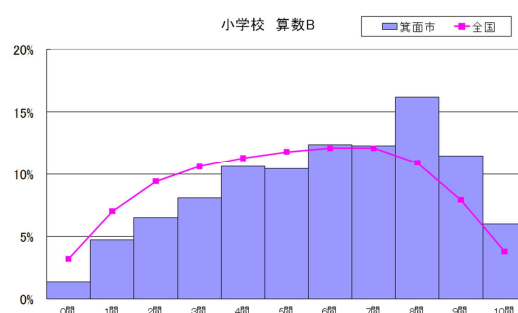
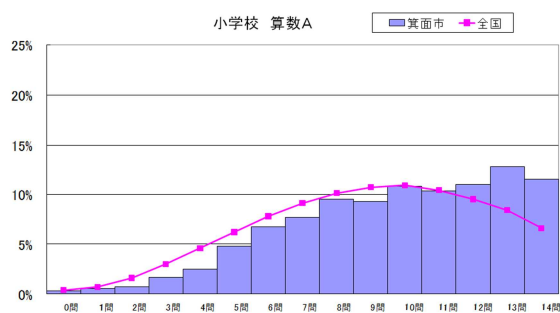
算数A（主に「知識」に関する問題）

算数B（主に「活用」に関する問題）

正答率

領域・観点
問題形式別正答率

正答数分布



算数 AB から見えてくること

すべての領域、観点、問題形式において、全国の平均正答率を上回っており、本市の状況は概ね良好です。

○算数Aの「2つの数量の関係を理解し、数直線上に表す問題」では、全国の平均正答率を大きく上回りました。

（全国比+8.8ポイント）

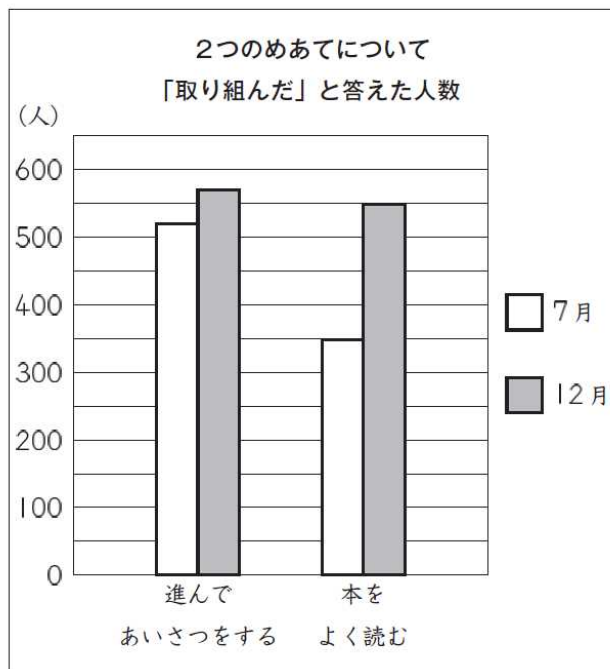
○算数Bの「合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見いだす問題」で、全国の平均正答率を大きく上回りました。（全国比+9.0ポイント）

△算数Aの「円周率の意味を答える問題」で、全国の平均正答率はやや上回ったものの（全国比+4.3ポイント）、45.9%と低い正答率にとどまりました。

△算数Bの「メモの情報と棒グラフを組み合わせたグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを言葉や数を用いて記述する問題」は、全国平均を上回ったものの（全国比+5.6ポイント）、全11問中、正答率が最も低く、無解答率が最も高いという課題が見られました。（裏面に記載）

算数B（主に「活用」に関する問題）全11問のうち、正答率が最も低く、無解答率が最も高かった問題

3 情報の関連付けと解釈・表現及び判断（アンケートの結果調べ）



メモ1

- ・「進んであいさつをする」
約570人
- ・「本をよく読む」
約550人

メモ2

- ・「進んであいさつをする」
約50人
- ・「本をよく読む」
約200人

しおりさんたちの学校は、「進んであいさつをする」と「本をよく読む」の2つのめあてに取り組んでいます。

しおりさんたちは、7月と12月に、2つのめあてについて全校児童625人に対してアンケート調査をし、その結果をグラフに表しました。

しおりさんは、グラフからわかることを2つのメモに書きました。
～（略）～

(1)メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目して書かれていますか。それぞれ着目していることを、言葉や数を使って書きましょう。

（正答の条件）

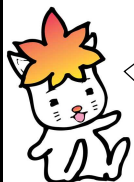
次の①、②の全てを書いているもの。

①メモ1が12月の人数に着目して書かれていることを表す言葉や数

②メモ2が7月の人数と12月の人数の差に着目して書かれていることを表す言葉や数

（正答例）

メモ1は、12月の人数に着目して書かれていて、メモ2は、7月の人数と12月の人数の差に着目して書かれています。



この問題の正答率は26.3%だったよ！
とっても難しかったけど、合わせて18.3%の人はもう少しで正解になっていたんだよ！惜しい！

（他の解答類型）

- ・①、②以外の解答 38.0%
- ・①を書いているもの 11.1%
- ・②を書いているもの 6.7%
- ・記述が不十分なもの 0.5%
- ・無解答 17.3%

2つの捉え方について書くことがポイントだったでござる。



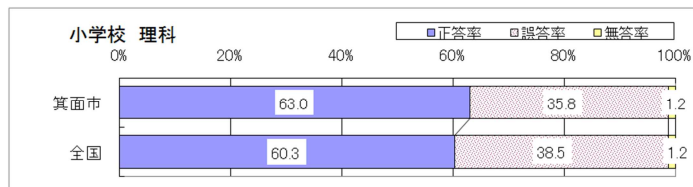
多面的に考えましょう

上記問題の「しおりさん」たちは、目的に応じてデータを収集、分類整理し、結果を適切に表現するという「統計的な問題解決活動」をしています。現代社会において、統計的な問題解決は様々な分野で用いられる必須のツールとなってきました。統計的な問題解決では、立場や捉え方によって結論が異なる場合があるため、多面的に捉え直してみたり、批判的に考察したりすることが重要です。

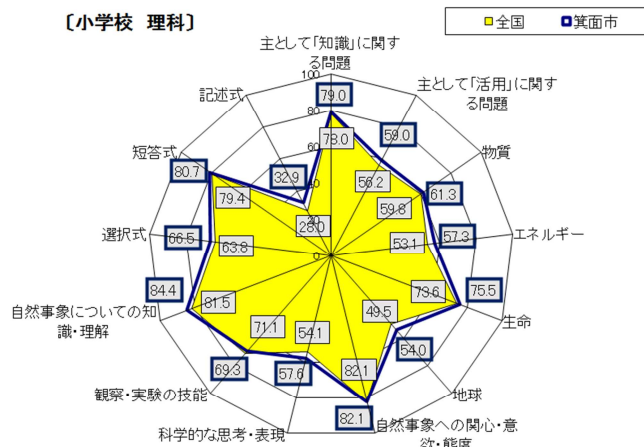
新聞や雑誌など、統計的な資料に触れる機会がよくありますが、本来の特徴とは異なる印象をもたせるために作られたグラフが用いられることもあります。そのため、グラフを注意深く読み取ることができるよう、多面的に考える態度を育むことが大切です。

「本当かな？」「別の考えはないかな？」など、物事を「多面的に考える」ということを意識して生活してみましょう。

正答率

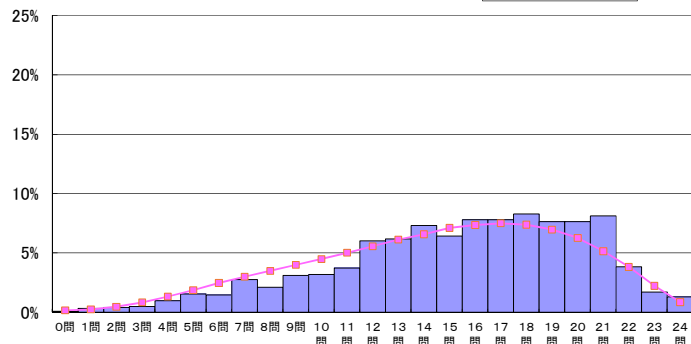
領域・観点
問題形式別

【小学校 理科】



正答数分布

小学校 理科



理科から見えてくること

問題の多くが全国の平均正答率を上回っており、本市の状況は良好です。

【主として「知識」に関する問題】

〈自然事象についての「知識・理解」において、よく身についています。〉

○腕を曲げることのできる骨と骨のつなぎ目を表す言葉や、流されてきた

土や石を積もらせる水のはたらきを表す言葉について、よく理解できています。

・「うでを曲げたりすることができる骨と骨のつなぎ目のこと」を、「関節」と書くことができています。

・川のように流れる水の「土や石を積もらせるはたらき」を、「堆積」というを選択することができています。

流れる水には、地面を削ったり土や石を運んだり、流されてきた土や石を積もらせたりするはたらきがあり、それぞれのはたらきを侵食、運搬、堆積ということを理解しています。

△ろ過の適切な操作方法を身につけているかを問う問題では、全国値に比べ正答率が低く、課題がみられました。

【主として「活用」に関する問題】

〈提示された自然の事物・現象と、理科で学んだ知識・技能を結び付けて考え適用することが、概ねできています。〉

○太陽の1日の位置の変化と、光電池に生じる電流の変化の関係を、目的に合ったものづくりに適用できるかどうかを問われ、既習の内容や生活経験を実際の自然や日常生活などに適用することができています。

△一度に流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、選んだ理由を書く問題に課題がみられました。(詳細は、次ページの問題例を見てください。)

正しくろ過するために、以下の2点に気をつけるでござる。

- ①ガラス棒をろ紙に当てる位置を考えながら、ろ過する液がろ紙の高さを超えないように注ぐ。
- ②ろ過する液がろ紙を通過せずにピーカーへ流れ落ちることのないようにする。



光電池の置き方を工夫して、午後1時ごろから午後3時ごろだけプロペラが回るようにできないかな。



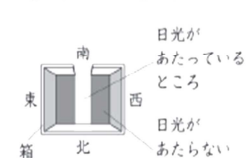
そこで、ひろしさんたちは、光電池を下のような切れこみの入った箱の中に入れて、日光のあたり方を調整することにしました。

光電池を入れる箱



正午に箱の中には、右の図のように日光が差しこみます。

＜箱の中を上から見たようす＞



理科② 地球に関する問題 (3) 実験の見通しを伴った解決の方向性の構想, 実験結果を基にした分析 (増水による土地の変化)

よしさんが実験した結果は、下の表のようになりました。

実験結果	
ア	イ
1回目 たおれた	1回目 たおれない
2回目 たおれた	2回目 たおれた
3回目 たおれた	3回目 たおれない
ウ	エ
1回目 たおれない	1回目 たおれた
2回目 たおれた	2回目 たおれた
3回目 たおれない	3回目 たおれた

上の実験の結果で2回目だけイとウに立てた棒がたおれたことに疑問をもったかつやさんたちは、2回目だけ水の流し方がちがっていたのではないかと考えました。



2回目は、ピーカーから一度に流した水の量が多かったかもしれない。

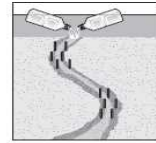
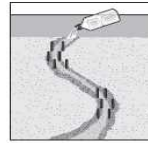


実際に大雨が降って川を流れる水の量が増えると、流れる水が地面をけずるようすも変わるのではないかな。

そこで、かつやさんたちは、次のページのような実験をすることにしました。

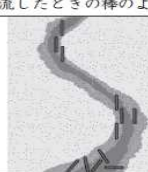
水の量を変えた実験

- 地面のけずられ方についてくわしく調べるために、みぞの曲がっているところの外側と内側に3本ずつ棒を立てる。
- 1本のペットボトルの水を流したときと、2本のペットボトルの水を同時に流したときの棒のようすを調べる。



実験結果

1本のペットボトルの水を流したときの棒のようす



2本のペットボトルの水を同時に流したときの棒のようす



- (3) 上の実験の結果から、川を流れる水の量が増えると、川の曲がっているところの外側と内側の地面のけずられ方は、どのようになると考えられますか。下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを実験結果の「水の量」と「棒のようす」がわかるようにして書きましょう。

- 1 外側も内側もけずられる。
- 2 外側も内側もけずられない。
- 3 外側だけがけずられる。
- 4 内側だけがけずられる。

(正答) 【番号】 1

(正答例) 【わけ】 2本のペットボトルの水を同時に流して、水の量を増やすと、みぞの曲がっているところの外側と内側の両方とも棒がたおれたから。

◎実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できるかどうかをみる問題



「3」を選択した子が4割、「1」を選択したけど、理由が条件に合わせて書けていない子が2割いたよ。
実験結果から、水の量が増えると、川の曲がっているところの内側と外側の両方がけずられていること(事実)と、「水の量」と「棒のようす」についてわかりやすく記述すること(理由)が大切だね。

一度に流す水の量を増やした場合の棒の様子と、水の量を増やす前の棒の様子とを比較し、考察することが必要でござる。
また、外側の棒も内側の棒も倒れた様子を記述することも必要でござる。



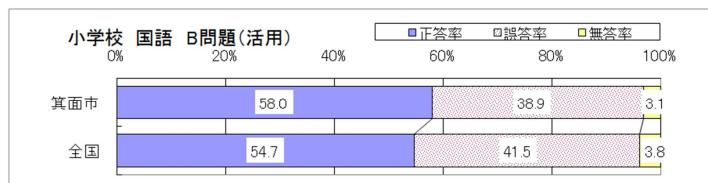
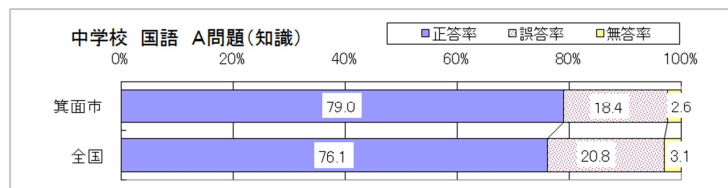
■器具の操作等の観察・実験の知識・技能、記述式の問題に課題が見られます

- 器具の操作は、観察・実験で実際に使用することを通して身に付くものです。そのため、理科の授業では器具を使用する場面を保障すること、器具の操作にどのような意味があるのかを理解できるようにすることを意識して授業を改善していきます。
- 実験については、一方的に先生や友だちの説明を聞くだけではなく、課題に対して自分の予想をもとに、実験の方法や計画を考えたり絵や図を用いて表現したりすることや、「なぜそのような結果になったのか」などの理由を自分の言葉でしっかり説明できるようにしましょう。
- 新しい課題がでてきても、これまでに学んだ知識から推測したり、科学的な見方・考え方を働かせて解決しようとしたりする力を高めていきましょう。

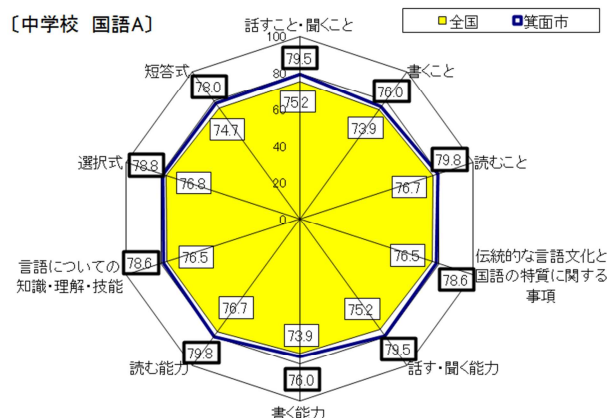
国語 A（主に「知識」に関する問題）

国語 B（主に「活用」に関する問題）

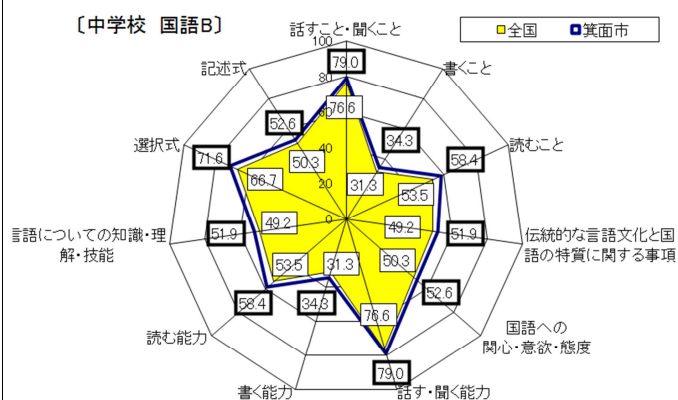
正答率

領域・観点
問題形式別正答率

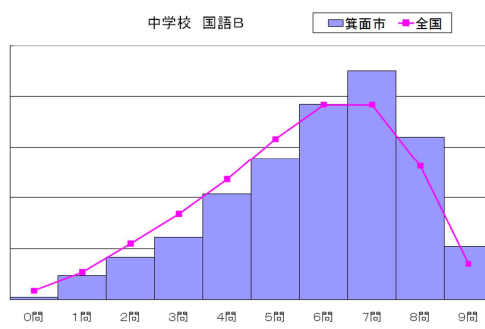
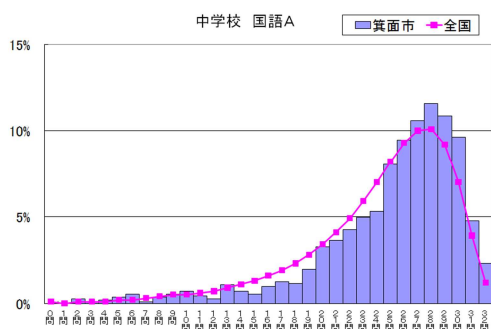
〔中学校 国語A〕



〔中学校 国語B〕



正答数分布



国語 AB から見えてくると

国語 AB とも、どの項目においても全国の平均正答率と同程度、もしくは高くなっています。

○国語 A では、どの項目もバランス良く得点出来ており、特に「話すこと・聞くこと」について結果が良好でした。特に「話合いの話題や方向を捉えて的確に話すことができるかどうかをみる」問題において、全国の平均正答率を大きく上回りました。

△国語 A の「言語についての知識・理解・技能」を短答式で解答する問題の一部について、無解答率が他の問題と比べて高くなるなど昨年度と同様の傾向が見られました。特に「8-1 舞台の マク が上がる」「先制点を ユル す」については無解答率が約 13 ポイントと約 15 ポイント、「8-3 彼は(水気 / せき / 紙 / く)を切ったように話し始めた。」(*正しいものを一つ選ぶ)については正答率が約 28 ポイントとなり、課題が見られました。

○国語 B の「話のあらすじを学級の友達にどのように説明するかを書く」問題において、正答率および無解答率ともに全国に比べ良好な結果となり、昨年度から改善されました。しかし、正答率は約 51 ポイントであり、依然課題のある問題と言えます。

→課題があった問題(裏面に記載)

△課題が見られた問題等【B問題】（※問題文の一部を省略してあります）

3 次の文章は、古典を現代語に訳したものです。これを読んであとの問いに答えなさい。

夢を買った話

むかし備中の国（今の岡山県）に（略）ひきのまきひとというものがいた。若かつたとき、気になる夢をみて、夢うらないの女のもとへみてもらいに出かけた。（略）、そのあと世間話をしていると、がやがやと大ぜいの人がやってくるようすである。見るとこの備中の国司の長男殿のおいでで（略）お供を四、五人連れて「ここが夢うらないの女の家か」「さようでございませう」などと言いながら入ってきた。で、まきひとは隣の部屋にかくれ、穴なんぞをくじつてのぞいていると、

「こんな夢をみたのだが、どういうことか」

と言って、国司の長男殿は、夢の内容をこまごまと語ってきかせた。女は答えた。「まことにすばらしい夢でございませう。あなたさまは、必ず大臣にまでおのぼりになります。（略）そうそう、けっしてけっしてこの夢を人にお話になりませぬように」

聞いて長男殿はたいそううれしそうであつた。（略）そのまま、いそいそと帰っていった。やがて隣の部屋からまきひとは出てきた。そして女に言った。

「夢というものは、横取りできるそうなの。どうだな、あの人の夢をわたしに取らせてくれまいか。（略）」

女はしばらく考えてうなずいた。

「よろしゅうございませう。おつしやるままにいたしましょう。それじゃ、さつそうこうなさいます。先ほどのおかたとまったく同じようにして、この部屋へ入っておいでなされ。それから、先ほど語られた夢を、語られたとおりにすこしもまちがえないで、あなたがもう一度お語りなさいませ」

まきひとは大喜びで、あの長男殿がしたのとまったく同じように部屋に入り、まったく同じように夢を語った。すると女も、先ほど言ったのとまったく同じことを答えたのである。（略）

その後、まきひとはひたすら勉強したので、ぐんぐんと学問のある人に成長した。その評判は朝廷にも聞こえ、試験してみたところ、評判通りたいたものである。そこで遣唐使に任命して、

「唐の文物をよくよく習ってくるように」と送り出された。長い間唐にとどまり、さまざまの学問や技術を習い覚えて帰国したので、天皇はまきひとをすっかり信任し、しだいに官職もあげてついには大臣にまで任命された。

（略）夢を取られたあの備中守の子は、官職もつかない身分で終わってしまった。まきひひとに夢を取られていなかったなら、この人こそ大臣にまでなっていたろうに。うっかり夢を人に話すものではない、と、むかしから言い伝えているのはそう、ここなのだな。

三 この話のあらすじを学級の友達に説明しようと思います。

あなたならどのように説明しますか。次の条件1と条件2に従って書きなさい。

- 条件1 話の展開を取り上げて書くこと。
- 条件2 七十字以上、百二十字以内で書くこと。

【出題の趣旨】

相手の的確に伝わるように、あらすじを捉えて書くことができるかどうかをみる。

【正答例】

長男殿のすばらしい夢の話聞いたひきのまきひとは、夢うらないの女に頼んで夢を横取りし、大臣になった。夢を取られた長男殿は大臣になれなかった。（71字）

ポイント

1 登場人物二人ともに着目している

ポイント

2 話の前半だけや後半だけではなく、全体を捉えている

【箕面市の子どもに多く見られた誤答例①】

国司の長男殿は、夢うらないの女のところへ行き、ひきのまきひとの夢を横取りした。しかし、努力家であるまきひとは最後には大臣になってしまいうという不思議な話である。（81字）

二人の関係が逆になっている

【箕面市の子どもに多く見られた誤答例②】

夢についての話。私はこの話を読んで、登場人物の関係がとても面白いと感じたまた、語り手の言葉が効果的で、この話の面白さを引き立てていると思った。（75字）

自分の感想が書かれてあり「話の展開を取り上げて書く」ことができていない

誤答例①も②も、条件2は満たしているけど、条件1を満たしていないんだね。

①は話の展開をうまく捉えられていないで、②は話の展開ではなくて、自分の感想を書いてしまっているね。

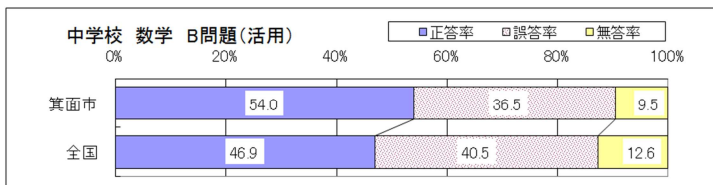
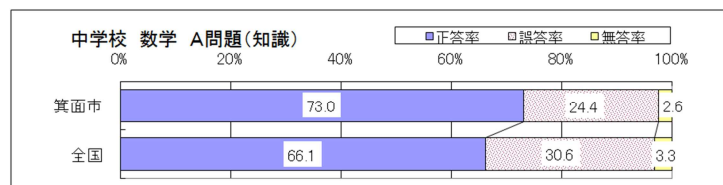


二つの条件うち、片方の条件を満たしていないことで誤答となっているケースが多く見られました。ここでは、伝えたい事実や事柄を、根拠を明確にして書くことが求められます。根拠を明確にするため「話の展開を取り上げる必要がありますが、どのように取り上げればいいのか」が難しかったかもしれません。「誰が」「いつ」「何を」「どこで」「なぜ」「どのように」の視点で見ると話の流れが捉えやすくなるので、それを意識していきましょう。

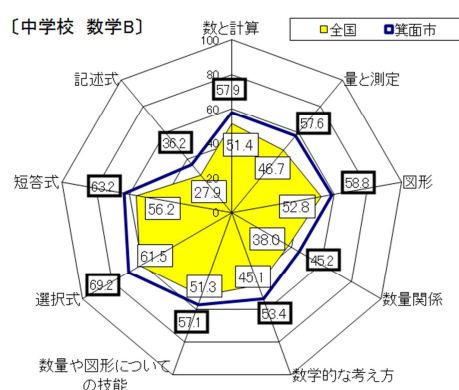
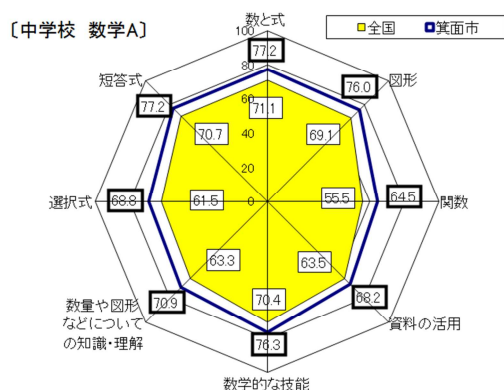
数学A（主に「知識」に関する問題）

数学B（主に「活用」に関する問題）

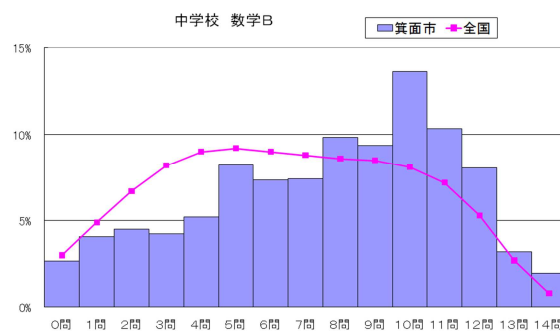
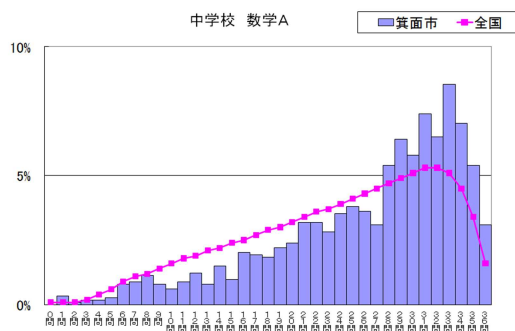
正答率



領域・観点
問題形式別



正答数分布



数学 AB から見えてくること

すべての領域、観点、問題形式において、全国の平均正答率を上回っており、本市の状況は概ね良好です。

【数学A】すべての領域、観点、問題形式で全国の平均正答率を上回りました。

○具体的な場面で関係を表す式を等式の性質を用いて、目的に応じて変形する問題では、全国の平均正答率を大きく上回りました。(全国比+12.5ポイント)

△一次関数の意味を理解する問題では、全国の前正答率よりは上回りますが(全国比+5.4ポイント)、市の正答率は41.8%と低い正答率にとどまりました。

【数学B】すべての領域、観点、問題形式で全国の平均正答率を上回りました。

○事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明する問題では、全国の前正答率を大きく上回りました。(全国比+15.3ポイント)

△説明を要する次の問題では、全国の前正答率よりは上回りますが、いずれも正答率が20%以下となりました。

・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題(全国平均正答率13.2%。本市正答率18.4%)

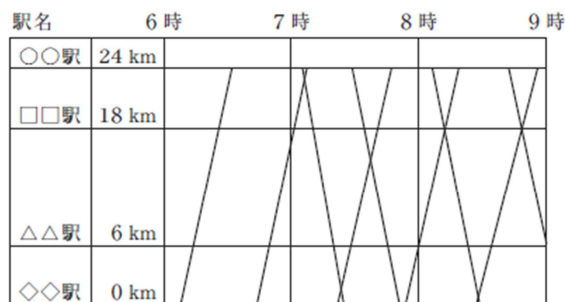
・「団体料金の10人が通常料金の何人分にあたるか」を計算から解釈し、数学的な表現を用いて説明する問題

(全国平均正答率10.4%。本市正答率13.9%)

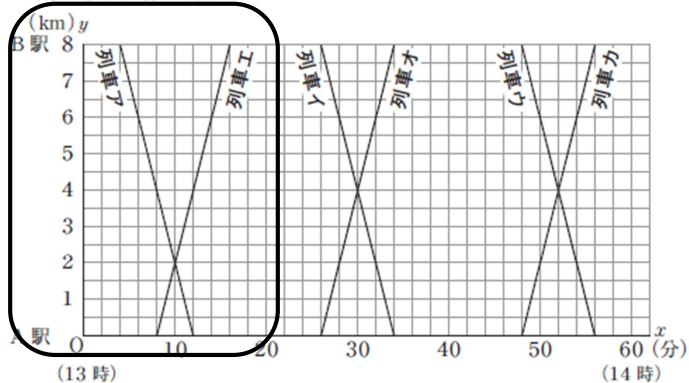
数学B（主に「活用」に関する問題）全14問のうち、正答率が低く、無解答率が最も高かった問題

3 太一さんは、自分の地域を走る列車の写真を撮影し、紹介しようと考えています。そこで、ダイヤグラムを参考にして、撮影計画を立てることにしました。

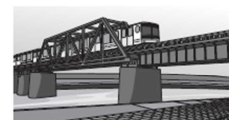
ダイヤグラムとは、下のように、横軸を時刻、縦軸をある駅からの道のりとし、駅と駅間の列車の運行のようすを直線で表したものです。



太一さんが作ったグラフ



(3) 太一さんは、A駅からの道のりが6 kmの地点にある鉄橋を通る列車Aと列車工の写真を撮影したいと考えています。



このとき、A駅からの道のりが6 kmの地点において、列車Aが通ってから列車工が通るまでにおよそ何分かかるかは、前ページの太一さんが作ったグラフから求めることができます。その方法を説明しなさい。ただし、実際に時間を求める必要はありません。

(正答の条件)

次の(a), (b)または(a), (c)について記述しているもの。

- (a) 列車Aと列車工のグラフのy座標が6である点に着目すること。
- (b) 上記(a)に対応するxの値の差を求めること。
- (c) 上記(a)に対応する2点間のx軸方向の距離を読むこと。

(正答例) 列車Aと列車工の2つのグラフについて、yの値が6のときのxの値の差を求める。

(他の解答類型)

- ・(a)についてyを用いた記述がなく、(b)または(c)についての記述が十分でないもの 19.6%
- ・(a), (b), (c)のみを記述を書いているもの 20.9%
- ・グラフについて記述しているが(a), (b), (c)について記述していないもの 12.0%
- ・上記以外の解答 6.0%

グラフのx軸とy軸が何を表しているかを考え、グラフを読みとれば、求めることができるでござる！



この問題では、グラフの必要な部分をしっかり読みとる必要があります。まず、問題では、列車Aと列車工のことについての問題なので、太一さんが作ったグラフ（太枠に示した部分）について着目します。

このグラフのy軸が6の列車Aと列車工についてのx軸の値を考えると列車Aが13時6分に通過し、列車工は13時14分に通過しています。この差を考えていきます。このことを、上記の正答の条件を満たすように記述することができれば正答にたどりつくことができます。箕面の子どもたちは、正答の条件では、(a)と(b),(c)どちらかの記述が必要ですが、片方は書けているが、両方記述できていない人が多くいました。物事について順序立てて説明できる力も必要です。



この問題の正答率は18.4%だったよ！

とっても難しかったけど、

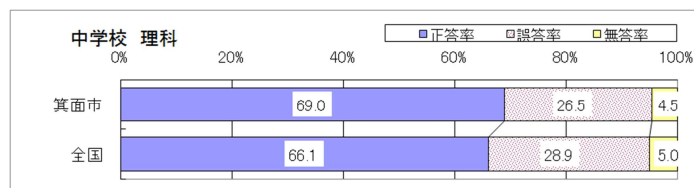
19.6%の人はもう少しで正解になっていたんだよ！惜しい！

ただ、この問題は、無解答率が23.1%あり、全国よりは少ない（全国33.4%）が記述することに難しさを感じている人が多いね。普段から言葉で表現することなどを練習する必要があるね！

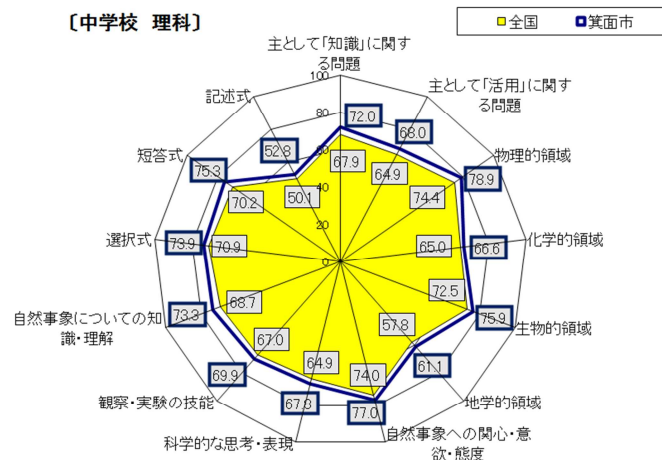
必要な情報を得て、説明できるようにしよう！

日常生活における関数の利用においては、事象の中にある関係を理想化したり、単純化したりしてとらえることが重要です。また、表、式、グラフを正しく理解し、変わるものの中で変わらない性質を見抜き、それを他者に説明することにより事柄の理解が一層深められます。そのため、必要な情報を取捨選択し既存の知識と結びつけ、数学的に説明できることが大切です。日常生活の中でも、この事柄を説明するためにはどんな情報がわかれば良いのかを意識して生活してみましょう。

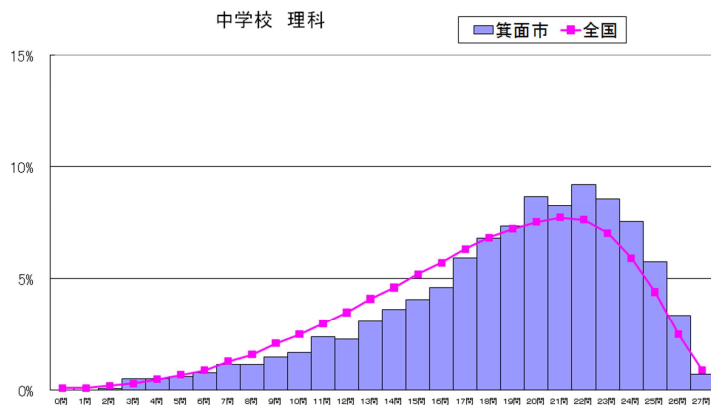
正答率

領域・観点
問題形式別

【中学校 理科】



中学校 理科



理科から見てくると

問題の多くが全国の平均正答率を上回っており、本市の状況は良好です。

【物理的領域】

(知識について)

○オームの法則を使って抵抗の値を求めることができました。

(活用について)

○豆電球と豆電球形のLEDの点灯の様子と電力との関係を答える問題はよくできていました。

【化学的領域】

(知識について)

○アルミニウムの原子の記号の表し方について知識を答える問題はよくできていました。

△ガスバーナーの空気の量を調節する場所を答える問題に課題が見られました。(裏面で解説)

(活用について)

△炎の色と金網に付くススの量を調べる実験を計画する際に、「変えない条件」を答える問題に課題が見られました。(裏面で解説)

【生物的領域】

(知識について)

○植物の葉などから水蒸気が出る働きが蒸散であるという知識を答える問題はよくできていました。

(活用について)

△アサリが出す砂の質量を、蛍光灯の下と明るい窓際の光の下で比べた場合に、明るさ以外に変わってしまう条件を答える問題に課題が見られました。

【地学的領域】

(知識について)

△太平洋高気圧(小笠原気団)の特徴についての知識に関する問題に課題が見られました。

(活用について)

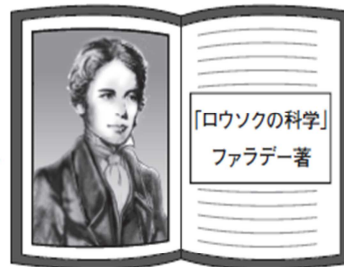
△植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を答える問題に課題が見られました。

物理的領域は、よくできているね。



課題が見られた問題 ファラデーの「ロウソクの科学」を科学的に探求する（科学的領域）

- 4 科学部の雪子さんは、図書便りに紹介されていたファラデーの「ロウソクの科学」を読んで、科学的に探究してレポートにまとめました。
- (1)から(3)までの各問いに答えなさい。



炎の色とスス（炭素）の量



ロウソクの炎から飛んでいくスス（炭素）をご覧ください。
ススが生じるのは、空気が不足したまま燃烧しているためです。

ガスバーナーの炎が赤いときに、金網にススがついたのは、
空気が不足したまま燃烧したからかな。

ススがついた金網



ロウソクの炎に金網を当てると、ススがつきます。
ロウソクの炎が赤いのは、ススが炎の熱によって輝くからです。

ガスバーナーの炎が赤いときは、ススの量が多いのかな。
ガスバーナーの炎が青いときは、ススの量が少ないのかな。



レポート

課題

ガスバーナーの空気の量を変えて、炎の色と金網につくスス（炭素）の量を調べよう。

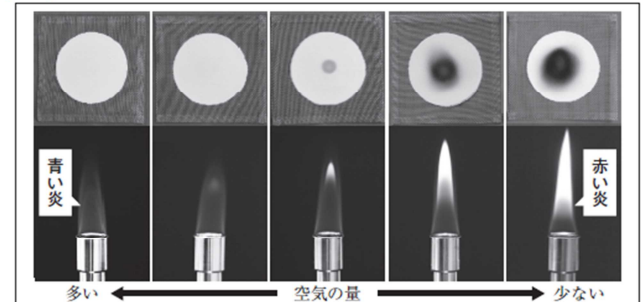
【実験】

表1のように、変える条件と変えない条件を決めて、炎の色と金網につくススの量を調べる。

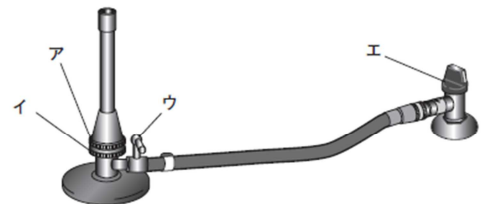
表1

変える条件	空気の量
変えない条件	ガスの量、 X 、.....

【結果】



- (1) 上の下線部について、空気の量を調節する場所を、下の図のAからEまでの中から1つ選びなさい。



- (2) 表1の に適する変えない条件がいくつかあります。変えない条件を1つ書きなさい。

解答例

(1) A

(2) 炎に金網を当てる時間

(他に、炎と金網の位置など)

(2) は、「炎の大きさ(勢い)」や「炎の色」といった間違いが多かったよ。



(1) は、どのようにガスや空気が入ってくるのか、ガスバーナーの構造を考えると覚えやすいでござる。丸暗記しようとするのではなく、なぜ上のネジが空気の量の調節で、下のネジがガスの量の調節になっているのか、疑問を持って学んでほしいでござるな。

(2) は、炎の色と空気の量、炎の大きさとガスの量の関係が理解できているでござるか。小学校で学習した「調べたい条件以外の条件は変えない(条件制御)」をもとに考え、実験を計画するでござる。



学校の学習はもちろん、日常生活や自然の事物・現象に自ら課題意識を持とう

○教科書に出てくる実験器具の操作の仕方は、正しく理解し覚えることが必要です。実験器具の操作の手順や方法には理由があります。丸暗記しようとするのではなく、なぜそのような構造になっているのか、どうしてそのように操作するのか、筋道を立てて理解することが大切です。

○実験の時間を大切にしましょう。観察、実験を通して探求の能力、科学的な思考力、表現力を高めていくことができるので、課題意識を持って主体的に学ぼうとする姿勢が大切です。日常生活や自然の事物・現象にも興味を持ち、問題を見いだして課題を設定し、実験を計画してみるとよいでしょう。また、新しい課題に対して、「教えてもらっていないからわからない」ではなく、これまで学習したことと結びつけながら、科学的な見方・考え方で解決していく力を高めていきましょう。

日々の積み重ねを力に、羽ばたく子どもたち

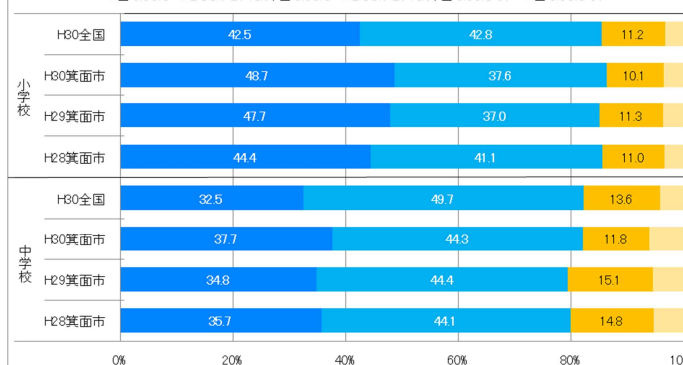
学習状況調査は、アンケート形式で児童生徒からの回答を求めるものです。学力状況調査の結果と関連がある学習状況の質問項目については、概ね良好な結果でした。肯定的な回答をする児童生徒の割合が全国と比べて低い項目がいくつかありますが、多くの質問項目について、肯定的な回答の割合が高くなってきています。特に生活習慣を問う項目や、チャレンジ精神を問う項目等は、例年同様の結果となりました。日々の積み重ねを元を力をつけている子どもたちの様子が伝わってきました。以下、今回の調査結果から見える箕面の子どもたちの様子について、いくつかの視点に絞って考察します。



学校生活の様子

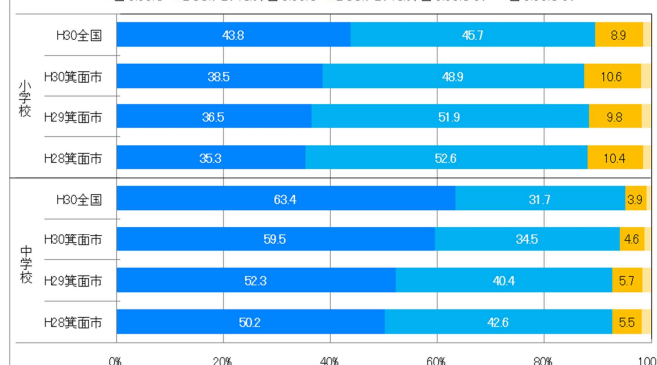
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



学校のきまりを守っていますか・学校の規則を守っていますか

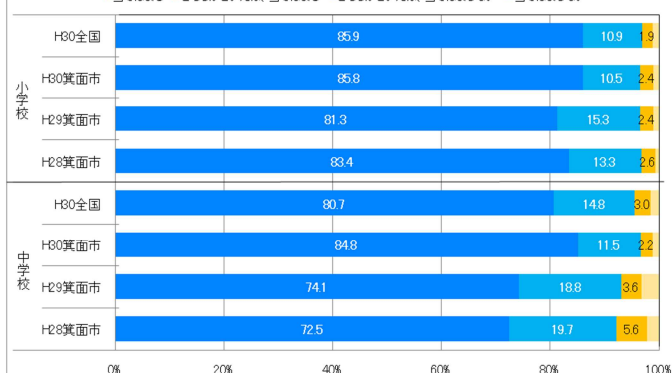
■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



子どもたちが学校が楽しいと思うか、楽しくないと思うかは、学校に自分の居場所があるかどうかに関わります。また、子どもたちが先生は自分のよいところを認めてくれていると感じると、自分の居場所はより安心できるものになるはずで、全国に比べて、箕面市の小学校では6.2ポイント、中学校では5.2ポイント上回っています。箕面の子どもにとって、学校が安心して仲間や先生とつながれて、自分を表現できる場であり続けるよう努めていきます。

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

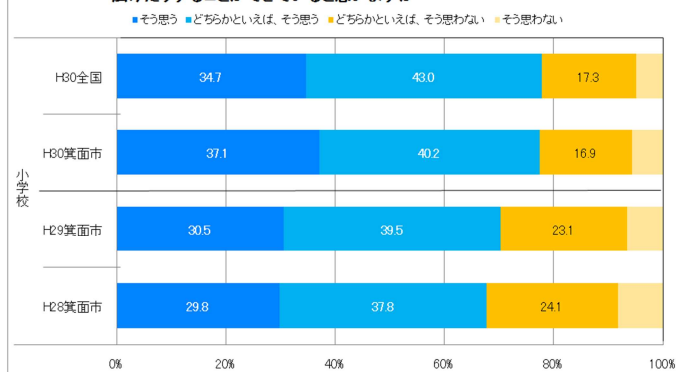
■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



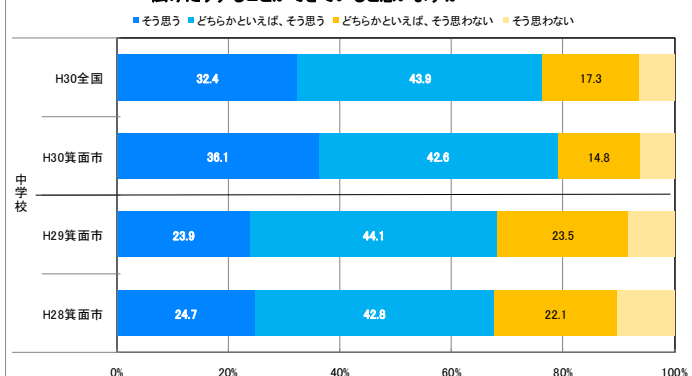
「当てはまる（そう思う）」と答えた割合は、小中学校ともに過去3年間で一番高い結果となっています。これは、学校での日々の取り組みの中で子どもたちの「いじめはいけない」という意識とともに、集団の中で「個々の違い」を認め合い、支え合っていこうという意識が高まっているものと考えています。



学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



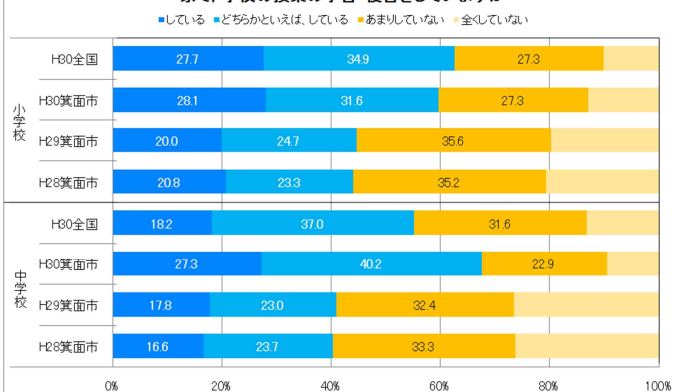
生徒の間に話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



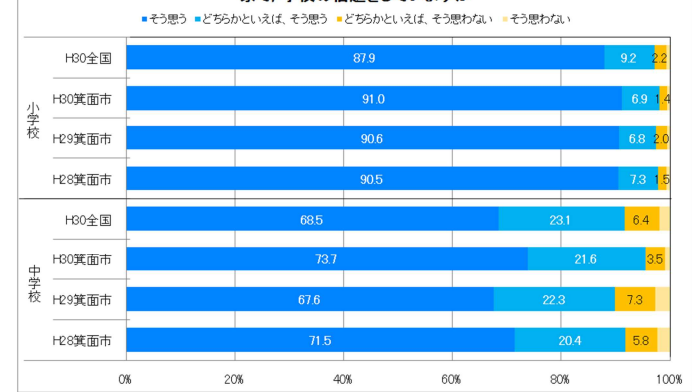
「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」という質問に対し、肯定的に答えている割合が、小中学校共に、過去3年間で最も高くなっています。新学習指導要領の中でも求められている「主体的、対話的で深い学びのある学習」を目指した授業展開を試みている成果であると考えられます。

家庭での学習

家で、学校の授業の予習・復習をしていますか

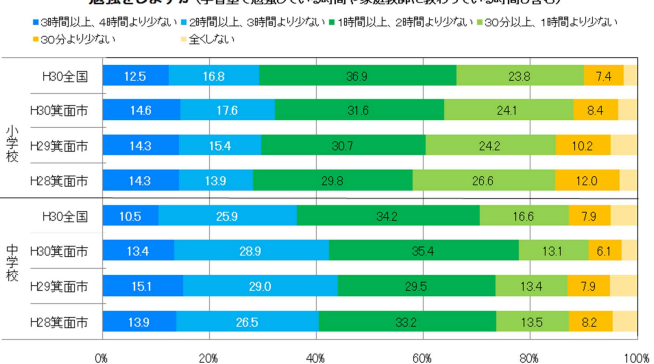


家で、学校の宿題をしていますか

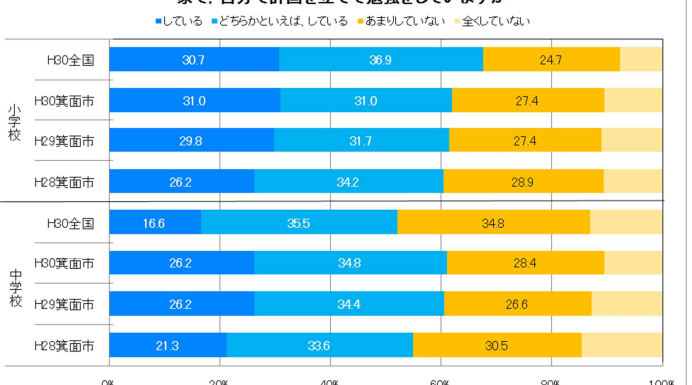


「家で学校の予習・復習をしていますか」という質問では、昨年に比べて「している・どちらかといえばしている」と答えた割合が小学校で大きく伸びました。中学校においても、昨年よりも26.7ポイント伸び、全国平均を大きく上回っています。子どもたちが授業の中で基礎・基本をおさえ、「もっと知りたい、学びたい」という主体的に学習する力がついてきていると考えられます。

学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間を含む)



家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか

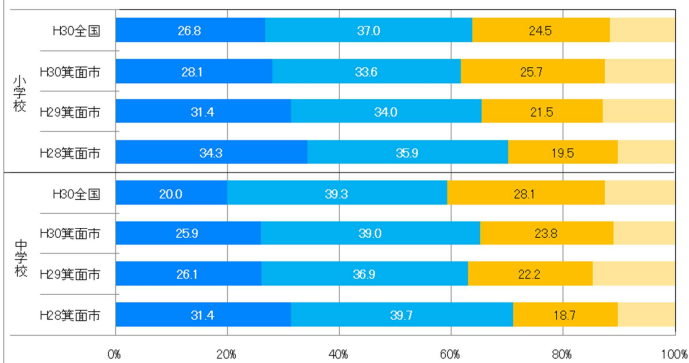


「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」という質問で、「している・どちらかといえばしている」と答えた子どもの割合は、中学校では引き続き、全国と比べて高い傾向にあります。主体的に学習する力が積み重なり、深い学びに繋がっていくことが期待されます。

地域や社会との関わり

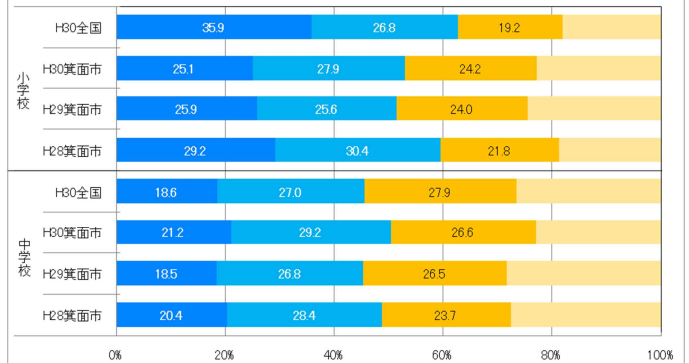
地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



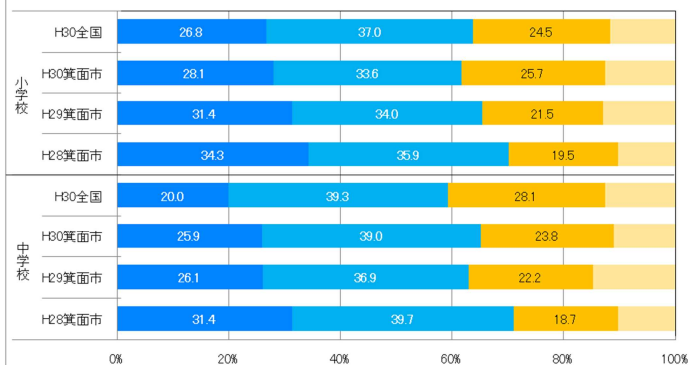
今住んでいる地域の行事に参加していますか

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



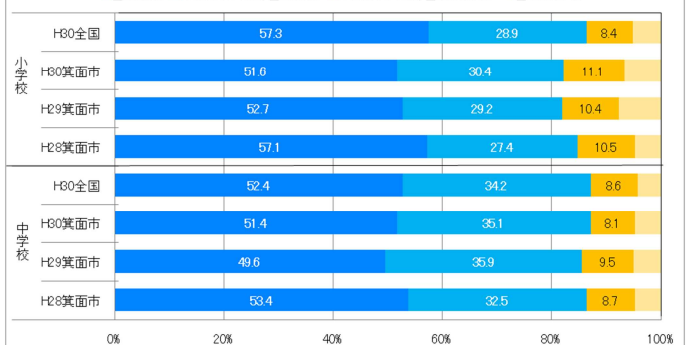
地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか(携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む)

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

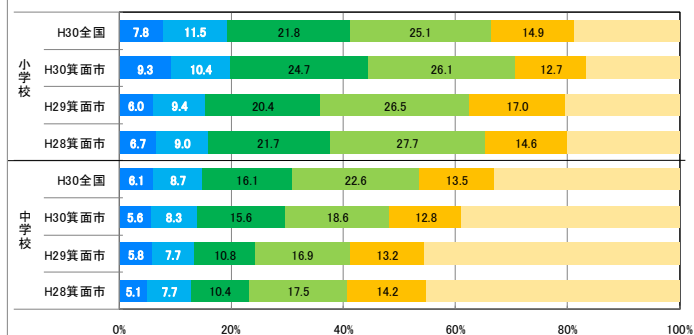


地域や社会で起こっている問題や出来事に関心を持つ児童生徒の割合は、小中学校とも6割を超えており、特に中学校では全国を上回っています。一方、地域の行事に参加している肯定的な回答の割合は、中学校は全国より高い傾向を示していますが、小学校は全国と比べて低い傾向にあります。また、地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある児童生徒の割合は、小中学校ともに全国を上回っているとともに、テレビやインターネットを活用してニュースを見ている児童生徒の割合は、平成28年度以降8割を超え続けるなど、社会への関心の高さがわかります。今後、自分の住む地域は自分たちで創るという気持ちを育てるために、地域の行事への参加を促す等、継続的な取組を進めていきます。

読書週間について

学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)

■2時間以上 ■1時間以上、2時間より少ない ■30分以上、1時間より少ない ■10分以上30分より少ない ■10分より少ない ■全くしない

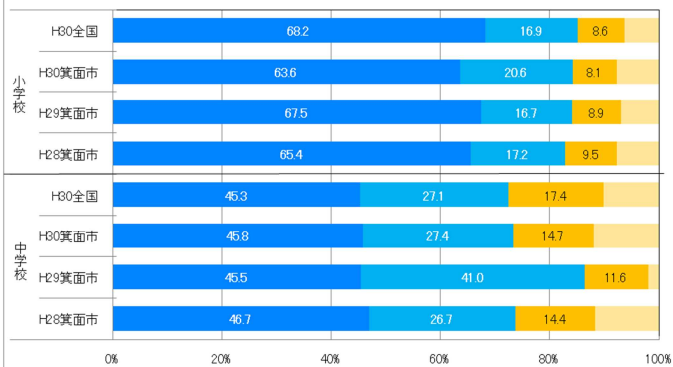


学校の授業時間以外に、普段(月曜日～金曜日)30分以上読書をしている割合は、小中学校とも増加傾向にあります。市内の全学校図書館には司書が常駐し、図書館への関心を高め、本に親しむ習慣をつけるための取組を行ってきました。「箕面・世界子どもの本アカデミー賞」や「箕面手づくり紙芝居コンクール」等も活用し、これからもじっくり本に向かう子どもの育成に努めます。

自分自身について

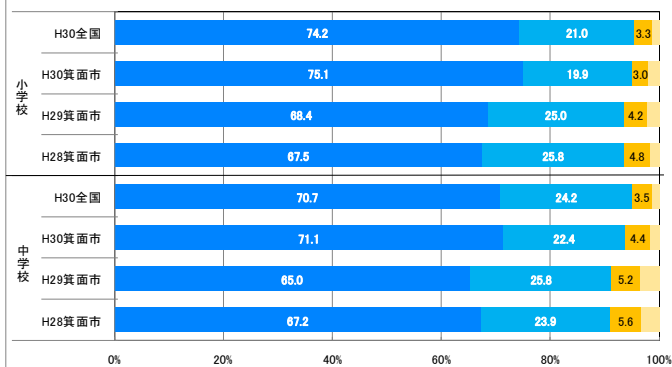
将来の夢や目標を持っていますか

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



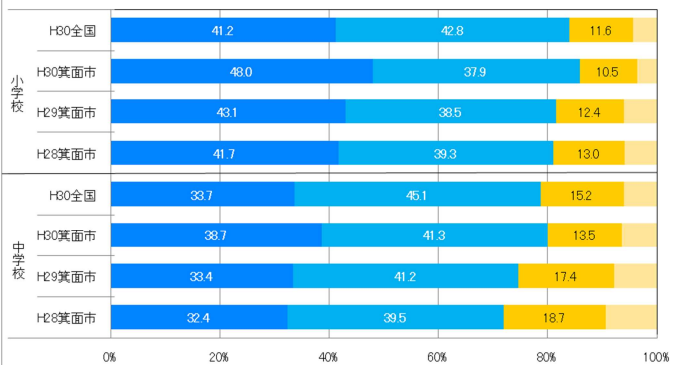
人の役に立つ人間になりたいと思いますか

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



自分には、よいところがあると思いますか

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

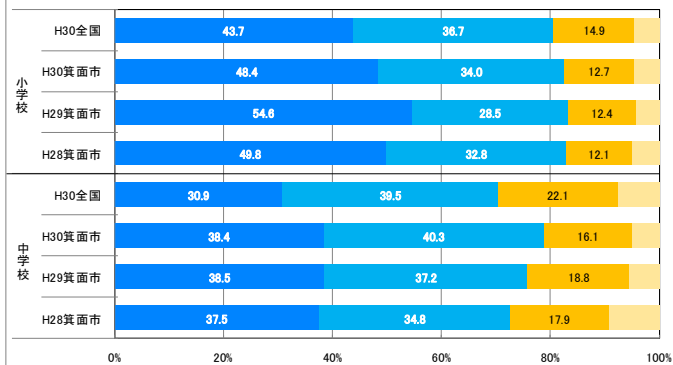


「将来の夢や目標を持っている」については、全国とほぼ同じ肯定率です。「人の役に立つ人間になりたい」「自分にはよいところがある」と思う児童生徒の割合は、小中学校共に年々高まっています。これは、自分を価値ある存在として自分自身を大切に思う気持ちを育む取組が、徐々に成果として表れていると考えます。今後も失敗を恐れず目標に向かってチャレンジしたり、目標を達成することで自信をつけさせたり、結果につながらなくても達成するために努力した過程を認めたりすることを大切にしていきます。

<算数・数学>

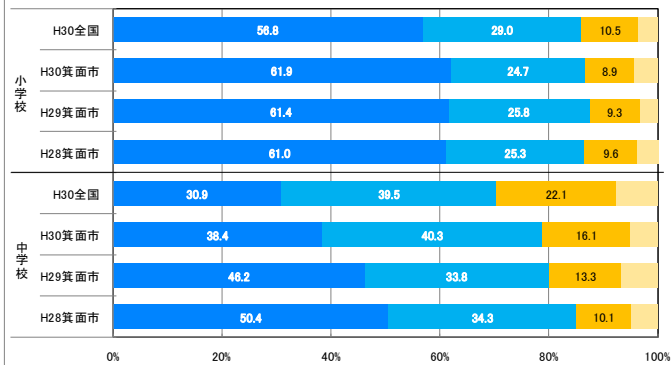
算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



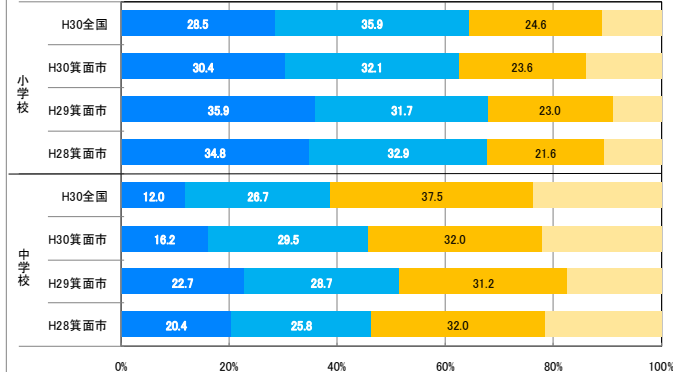
算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか

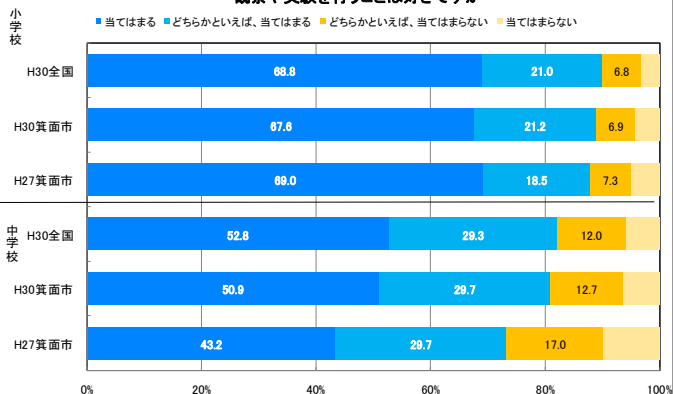
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



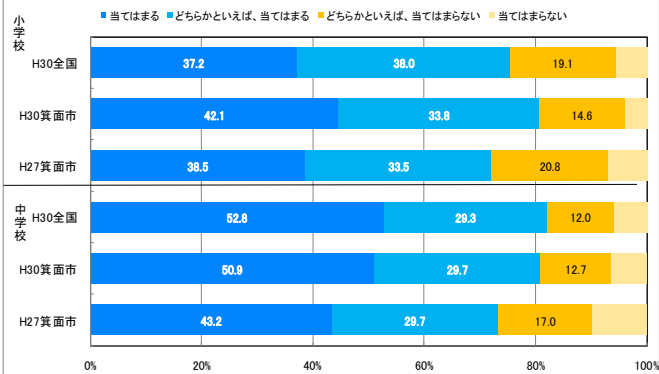
授業にて、公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしているという質問で「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と答えた割合が、小中学校とも全国より高く、特に中学校では年々高まっています。一方、「ノートに書く」という質問で、「当てはまる」の割合が下がってきています。自分の考えを言葉や文字で表すことで、より理解が深まるとともに、学んだことを実際の生活の中で活用できる機会が増えていきます。

<理科>

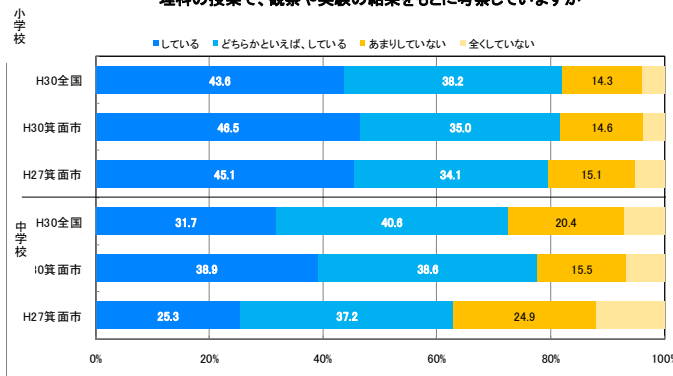
観察や実験を行うことは好きですか



理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか



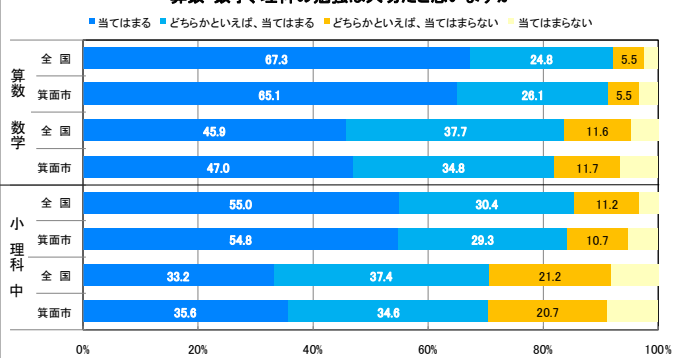
理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか



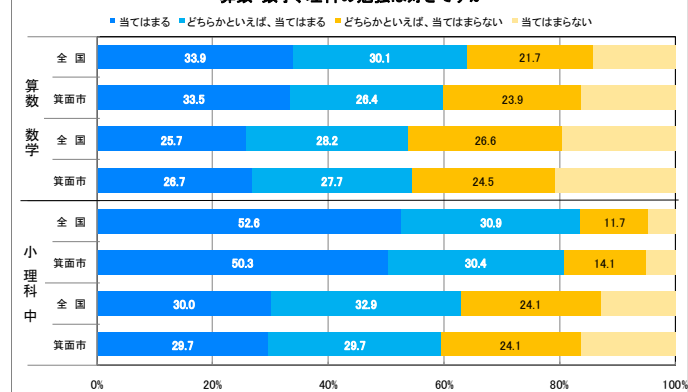
「観察や実験を行うことは好きだ」、「自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか」、「観察や実験の結果からどのようなことが分かったのか考えているか」、という質問に対して、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合は増えています。子どもたちが理科の授業に主体的に取り組み、課題解決能力を高めている結果です。今後も、生活に身近な題材を取り扱いながら興味・関心を高めるとともに、自ら学び、それを生かす児童生徒を育みます。

<授業・学習への関心>

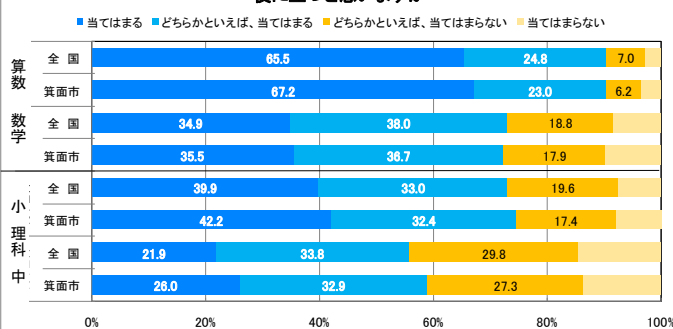
算数・数学、理科の勉強は大切だと思いますか



算数・数学、理科の勉強は好きですか



算数・数学、理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



算数・数学、理科は大切だと思う、勉強は好きだという割合は、全国と比べてやや低い傾向です。しかし、学習したことは、社会に出たときに役に立つと思うについては、小中学校の算数・数学、理科ともほぼ全国より高い傾向にあります。

自分で考え、友だちと学び合い、内容を理解していくことで、学習の大切さを実感していきます。学んだことが生活に役立つ経験を重ね、興味関心をもって学習に取り組むことを大切にしていきます。

調査全体のまとめ

「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問項目で「当てはまる(そう思う)」と答えた割合は、小中学校ともに過去3年間で一番高く、特に中学校では前年度を10ポイント以上上回るなど、児童生徒のいじめに対する認識が高まっていることが読み取れます。これは、各学校が毅然として「いじめ」は許さないという姿勢を示し続けてきたことに加え、日々の教員の指導や集団づくり、道德の授業や学校行事、児童生徒が主体となって実施してきた児童会・生徒会でのいじめ予防運動などの日々の取組が、「いじめはいけないこと」という認識として児童生徒の間に浸透し、こうした成果につながったと考えています。

「いじめを許さない」と児童生徒が考える背景には、上記のような取組に加え、児童生徒の自己肯定感・自己有用感の高まりが挙げられます。「先生は、あなたのよいところを認めてくれますか」という質問項目でも、「当てはまる(そう思う)」と答えた割合は小中学校ともに過去3年間で最も高い結果が出ています。自己肯定・有用感が高い児童生徒は、自分に自信を持つことができ、自分を大切にできます。また、他者に対しても尊敬の念を抱き、思いやり、愛情を持って接することができます。一つ一つのデータだけではわかりにくいのですが、これらはきちんと関連づけて結果が出ています。

さらに、自己肯定・有用感が高まり、自分を大切にしている児童生徒は学習面でも頑張れる傾向にあります。「家で学校の授業の予習・復習をしていますか」という質問項目では、「している」と答えた児童生徒が、小学校では6.9ポイント、中学校では17.2ポイントと昨年度を大幅に上回りました。また「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」や「家で、学校の宿題をしていますか」という質問項目においても肯定的に答えた割合は、過去3年間で最も高い結果となりました。

箕面の児童生徒が、自分や友だちを大切に、学習でも頑張りが続くことができるよう、これからも学校や地域・社会が一体となって支援を続けていきます。

🔑 ボランティア活動の意義 🔑

「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」という設問に対し、「参加したことがある」と答えた割合は、小学校では31.7ポイント（全国より-4.4ポイント）、中学校では44.4ポイント（全国より-7.4ポイント）であり、小中学校共に全国より低い結果が出ました。

ボランティアとは何か？

辞書に「ボランティア」という言葉が初めて掲載されはじめた当時は、「奉仕活動」や「善行」といった、本来の意味とは異なる言葉に訳されることが多かったようです。では、本来の意味とは何なのでしょう？

「ボランティア (VOLUNTEER)」の語源はラテン語の「volō」です。ここには、「自分から進んで〇〇する」という意味があり、誰かにさせられるものではなく、個人の自由意志による自発的な行為、つまり「自発性」や「主体性」に支えられて、社会問題や課題の解決に取り組む行為を指します。

実践することから

今年に入ってから、「大阪府北部地震」や「平成30年7月豪雨」などで被害に遭われた人や町を、多くのボランティアの方々が支援してきました。「個々の意志」に基づいて展開するボランティア活動は、援助を必要とする人にとっては欠かせない要素です。

こうした災害の際の活動に限らず、自分の身の回りの問題や気になることに対して、一人一人が自発的・主体的に「自分から進んで〇〇する」という姿勢が重要です。こうした姿勢を持つことが、学ぶ意欲や思考力、判断力などを総合的に高め、生きて働く学力を向上させることにもつながります。まずは、一歩、踏み出してみてはどうでしょうか。

平成30年度 箕面市体力・運動能力、運動習慣等調査

平成30年度(2018年度)箕面市平均／全国平均 記録一覧

単位	握 力 kg	上体起こし 回	長座体前屈 cm	反復横跳び 回	20mシャトルラン 回	50m走 秒	全国平均以上	箕面／全国
							立ち幅跳び m	ボール投げ m
小1男子						11.7/11.5	111.2/114.3	7.5/8.7
小1女子						12.1/11.8	104.1/107.4	4.9/5.8
小2男子						10.8/10.7	125.6/126.3	10.9/12.3
小2女子						11.1/11.0	117.1/117.8	6.7/7.6
小3男子						10.2/10.0	135.3/136.3	14.4/15.9
小3女子						10.5/10.4	127.0/127.6	9.1/9.8
小4男子				37.1/39.7	42.4/48.0	9.6/9.6	144.8/145.2	17.8/20.3
小4女子				35.6/38.0	33.7/38.5	9.9/9.9	137.6/138.9	10.7/12.1
小5男子	16.4/17.0	19.0/20.8	32.5/33.2	42.1/44.0	52.6/57.5	9.3/9.2	150.3/153.7	20.9/23.5
小5女子	15.9/16.4	17.9/19.3	37.1/36.9	39.9/42.0	41.2/45.6	9.5/9.5	143.6/148.0	12.8/14.4
小6男子	19.2/19.8	21.0/22.7	36.5/36.0	45.2/46.7	59.4/65.5	9.0/8.8	161.3/166.6	24.7/27.2
小6女子	18.9/19.7	20.1/20.5	41.9/40.1	43.7/43.9	47.8/50.5	9.2/9.2	155.8/156.4	14.5/16.5
中1男子	22.0/24.4	24.0/24.6	36.9/39.2	47.5/50.3	68.7/74.9	8.5/8.4	172.8/182.0	16.6/18.6
中1女子	20.7/22.0	21.7/21.3	43.1/43.5	44.2/46.0	53.1/55.1	8.9/9.0	163.6/166.3	10.8/12.2
中2男子	27.6/30.0	28.0/28.4	42.7/43.6	50.6/53.4	84.9/91.0	7.8/7.8	192.0/199.7	19.4/21.6
中2女子	23.1/24.4	24.6/24.3	45.3/46.2	46.9/47.9	60.6/62.0	8.7/8.7	167.5/172.3	11.7/13.7
中3男子	32.1/35.0	29.7/30.3	44.6/47.5	54.0/56.5	94.2/98.8	7.4/7.5	205.9/213.3	21.8/24.0
中3女子	24.7/25.7	25.6/25.1	47.0/47.6	47.6/48.8	61.0/62.6	8.5/8.6	171.5/174.9	12.9/14.5

平成30年度(2018年度)箕面体力・運動能力、運動習慣等調査 偏差値一覧

	握 力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	20mシャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ボール投げ
小1男子						48.7△	48.2△	46.4▲
小1女子						46.8▲	48.0△	45.3▲
小2男子						48.7△	49.6△	47.1▲
小2女子						48.3△	49.6△	46.3▲
小3男子						48.0△	49.4△	47.5▲
小3女子						48.9△	49.7△	47.6▲
小4男子				46.5▲	47.2▲	50.0	49.8△	46.6▲
小4女子				46.5▲	46.9▲	49.5△	49.3△	46.4▲
小5男子	48.6△	46.7▲	49.1△	47.2▲	47.7▲	49.0△	48.2△	46.7▲
小5女子	48.6△	47.1▲	50.2	46.9▲	47.5▲	49.0△	47.7▲	46.6▲
小6男子	48.6△	46.8▲	50.6	47.5▲	47.2▲	47.6▲	47.3▲	47.1▲
小6女子	48.1△	49.0△	52.2	49.7△	48.6△	49.9△	49.7△	46.4▲
中1男子	46.2▲	48.8△	47.5▲	45.6▲	47.3▲	48.8△	46.1▲	45.8▲
中1女子	47.0▲	50.8	49.6△	46.8▲	49.0△	50.3	48.8△	46.3▲
中2男子	46.6▲	49.4△	49.1△	46.0▲	47.6▲	49.6△	46.7▲	46.2▲
中2女子	46.9▲	50.5	49.0△	48.3△	49.3△	49.3△	47.9▲	45.5▲
中3男子	46.0▲	48.9△	47.2▲	46.2▲	48.0△	50.2	46.7▲	46.2▲
中3女子	47.7▲	50.9	49.2△	48.1△	49.3△	52.2	48.5△	46.4▲

※全国平均を基準にした偏差値

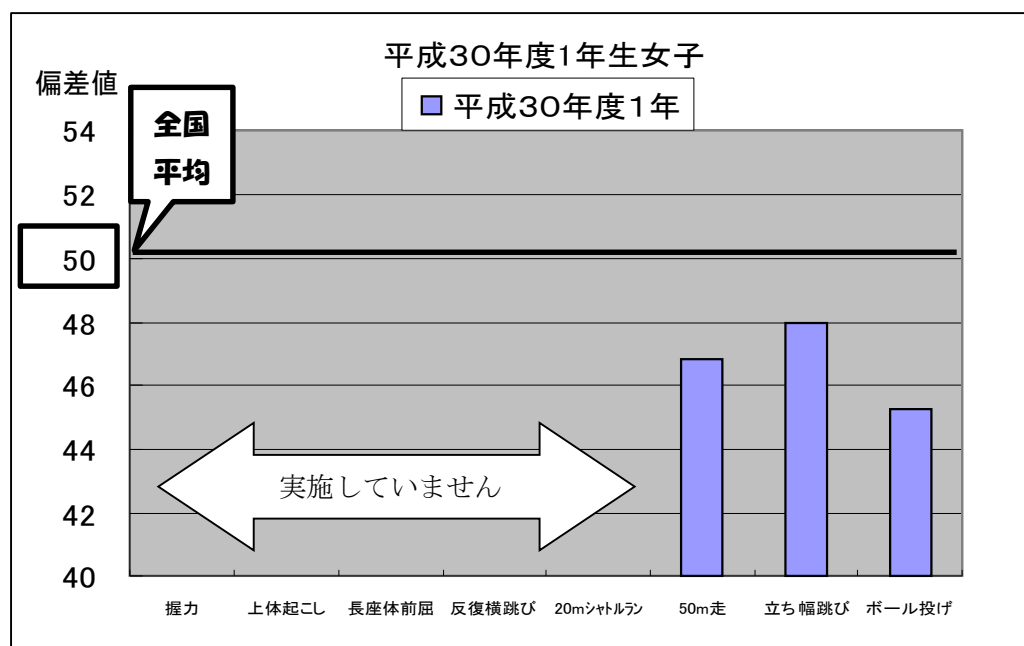
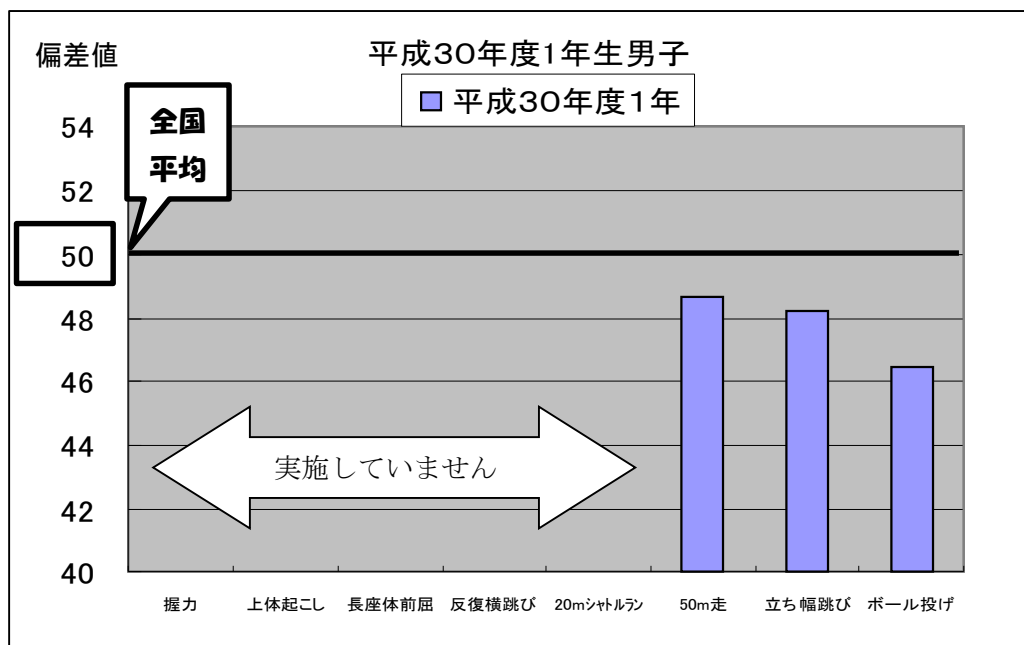
※数字および記号の表記（50以上…白抜き 48以上～50未満…△ 48未満…▲）

【概要】

- ◆ 小学校では、5年生女子と6年生男子女子の「長座体前屈」で全国平均値を上回っています。
- ◆ 中学校では、1年生女子、2年生女子、3年生女子の「上体起こし」、1年生女子、3年生男子女子の「50m走」で全国平均値を上回っています。
- ◆ 小・中学校とも、「反復横跳び」「ボール投げ」が全国平均値より大きく下回っています。また、小学校では「上体起こし」「20mシャトルラン」、中学校では「握力」「立ち幅跳び」が課題となっています。

1 年(小 1)

各種目結果の学年別経年比較



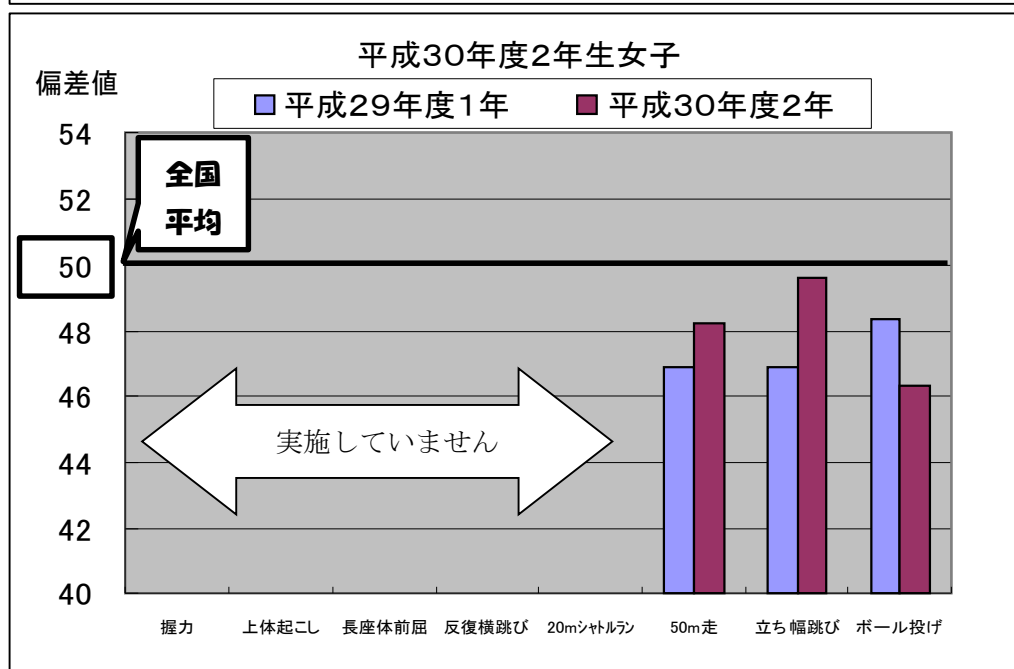
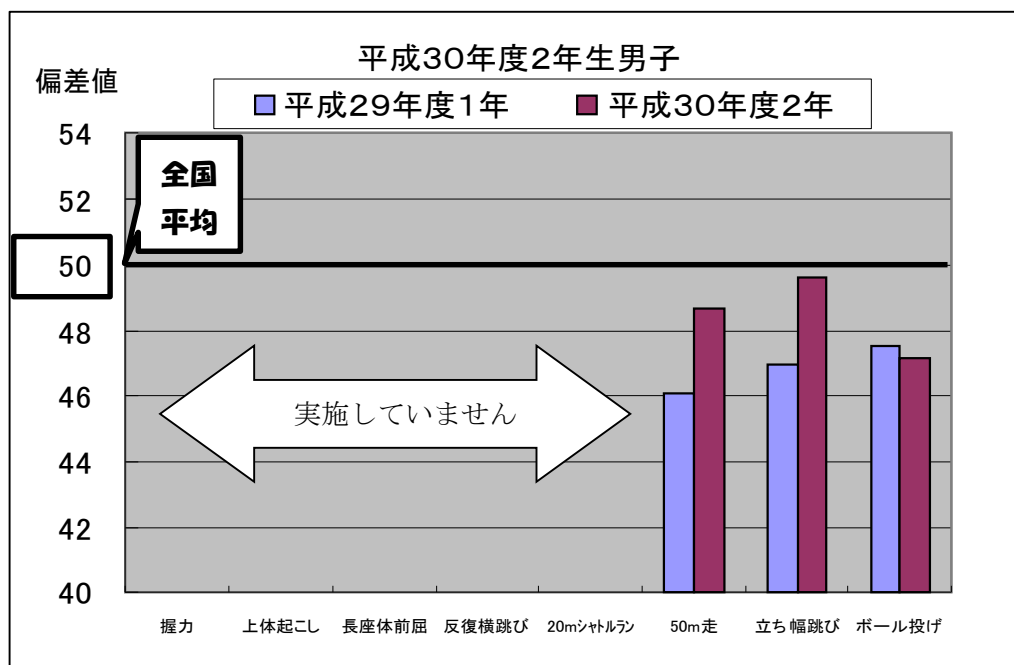
1年生は、初めて体力運動能力調査に取り組みました。男子女子ともに、全3種目において、全国平均値を下回っています。

また、男子女子「ボール投げ」、女子「50m走」については、全国平均値との差が大きく課題であることがわかります。

その種目に慣れていない面があると思われますが、就学前から、幼稚園・保育所、家庭等とも連携し体力を高める運動に取り組む必要があります。

2年(小2)

各種目結果の学年別経年比較

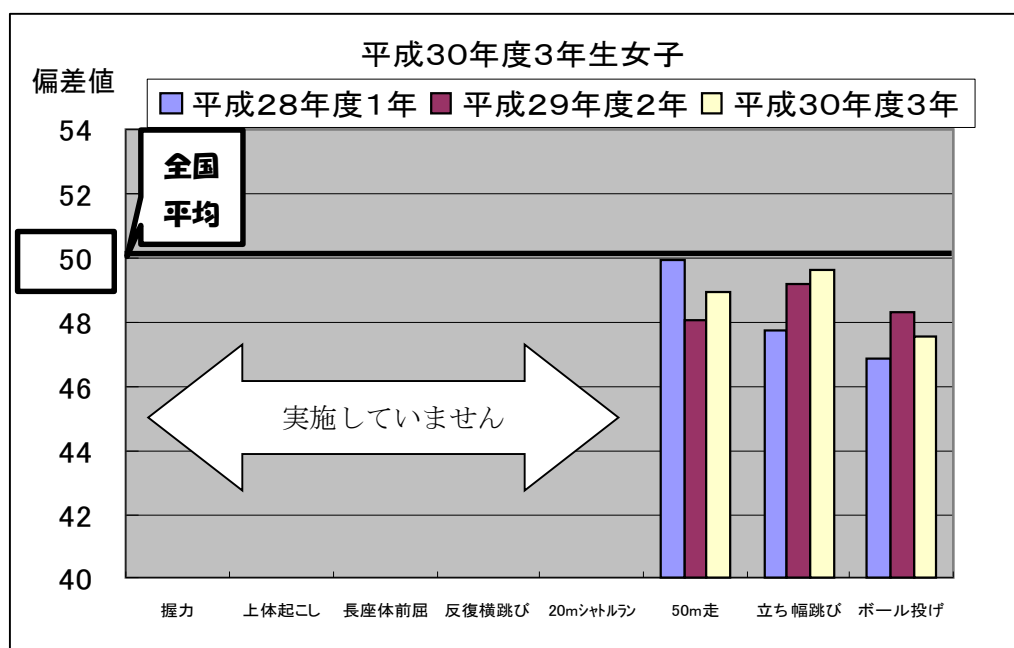
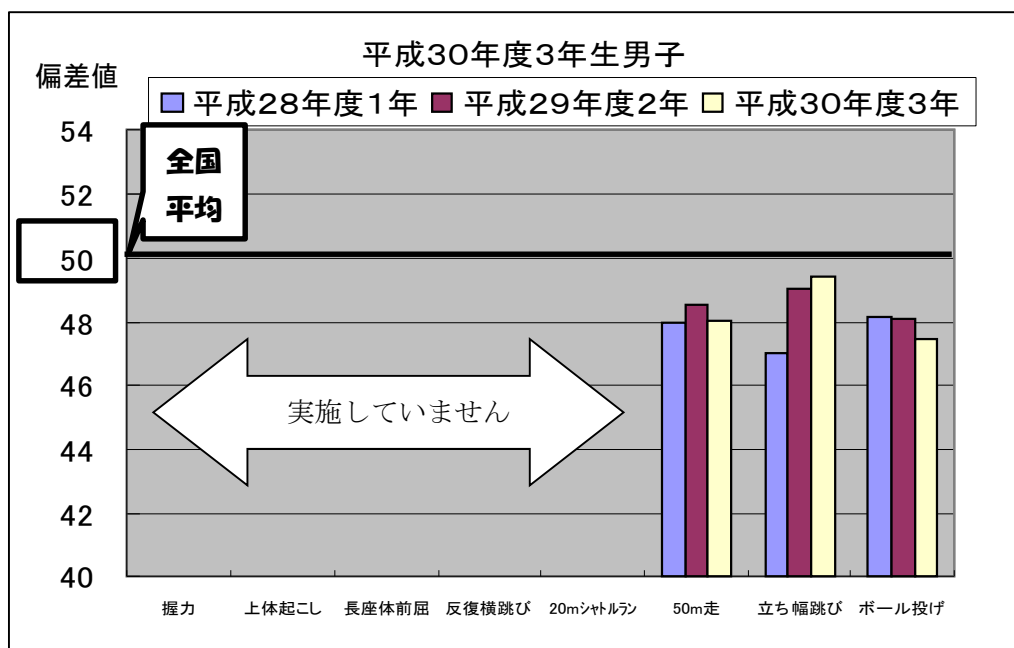


2年生男子女子ともに全3種目において、全国平均値を下回り、全種目での体力向上が今後の課題です。

「ボール投げ」においては、男子女子ともに昨年度を下回っていますが、男子女子とも、「50m走」「立ち幅跳び」は、全国平均値に近づいています。

3年(小3)

各種目結果の学年別経年比較

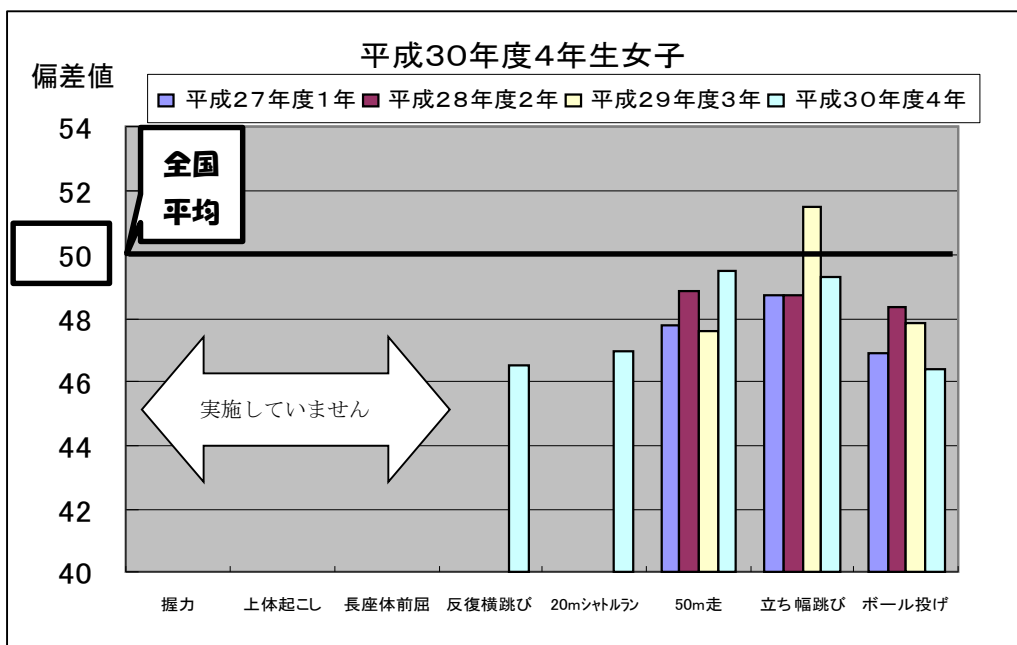
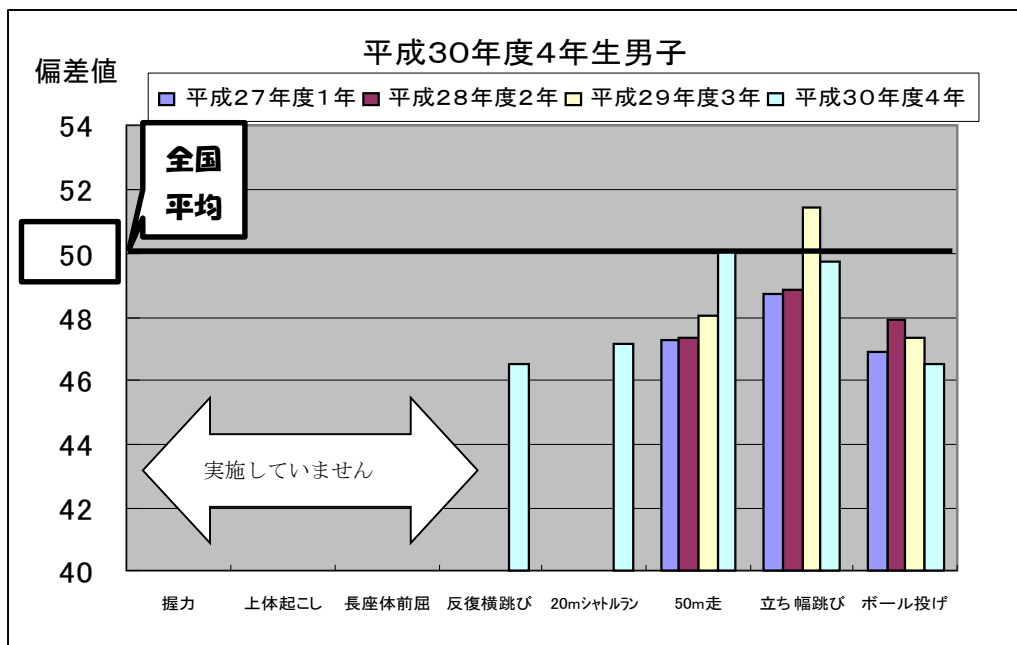


どの種目においても、男子女子ともに全国平均値を下回っており、依然として課題が継続しています。

しかし、「立ち幅跳び」においては、男子女子ともに全国平均値に近づきました。女子「50m走」においても、昨年度の結果を上回りました。

4年(小4)

各種目結果の学年別経年比較

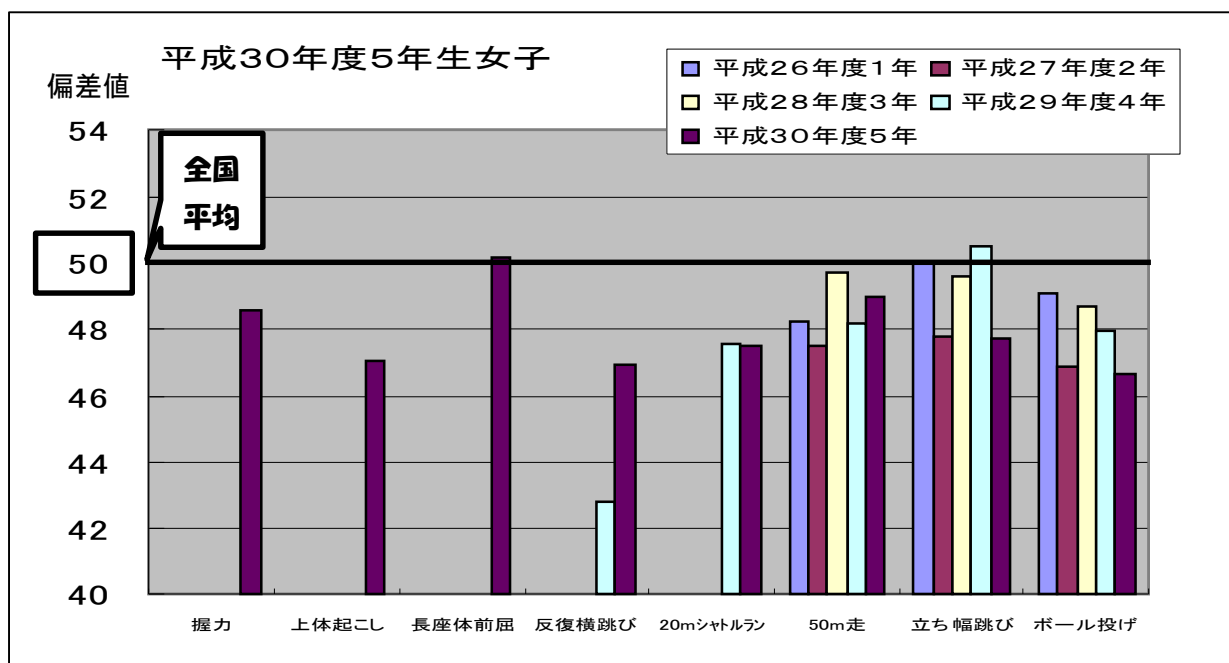
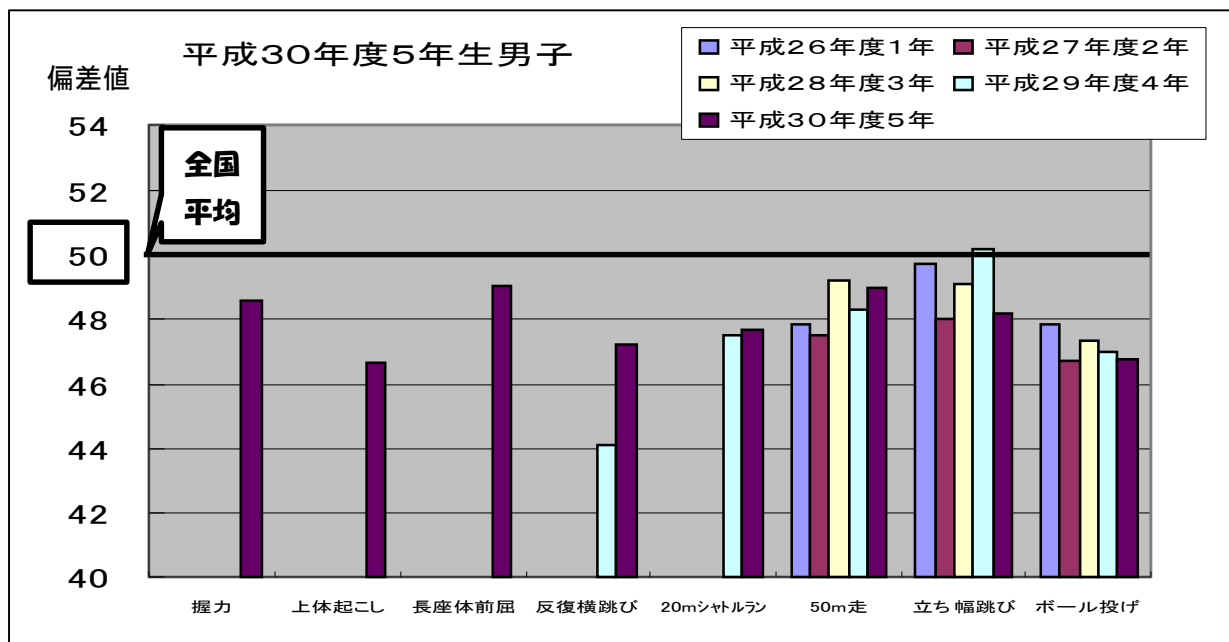


4年生では、男子が、「50m走」において全国平均値を上回りました。
 しかし、男女とも「立ち幅跳び」は、全国平均値を下回り、3年生の時の結果と比較しても下回っています。男女ともに「ボール投げ」においては、全国平均値を大きく下回っています。

※「反復横跳び」「20mシャトルラン」は、4年生から実施する種目です。

5年(小5)

各種目結果の学年別経年比較



初めて実施した「長座体前屈」では女子で全国平均値を上回りましたが、「上体起こし」では、全国平均値と大きな差が見られました。

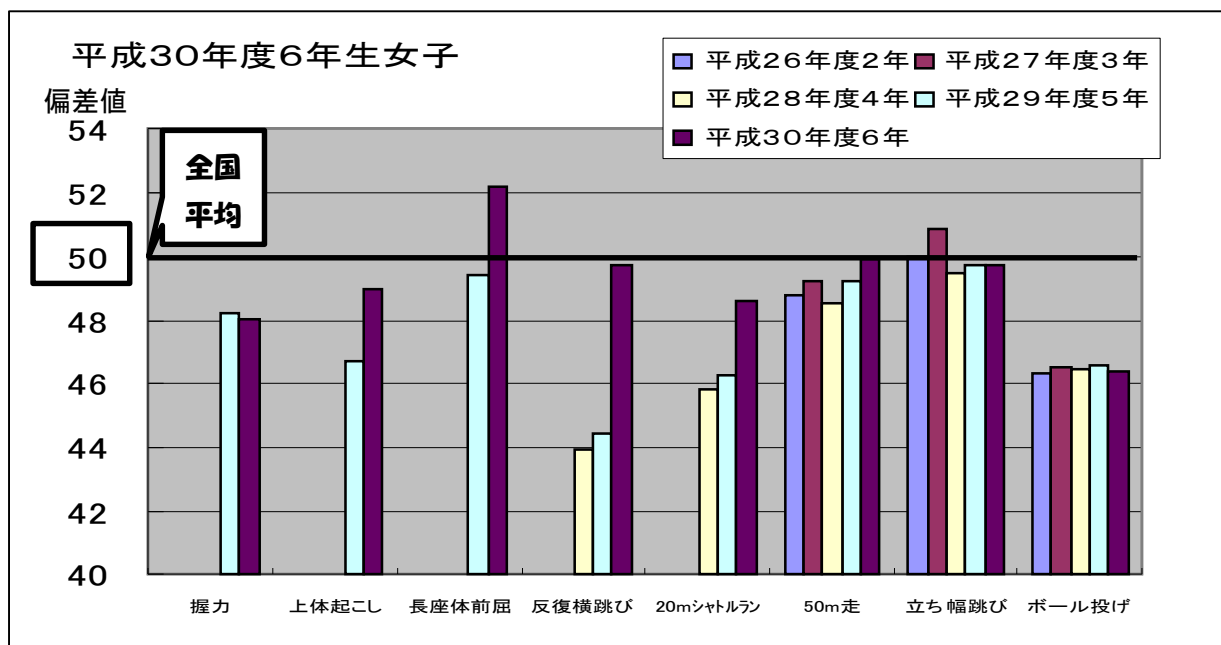
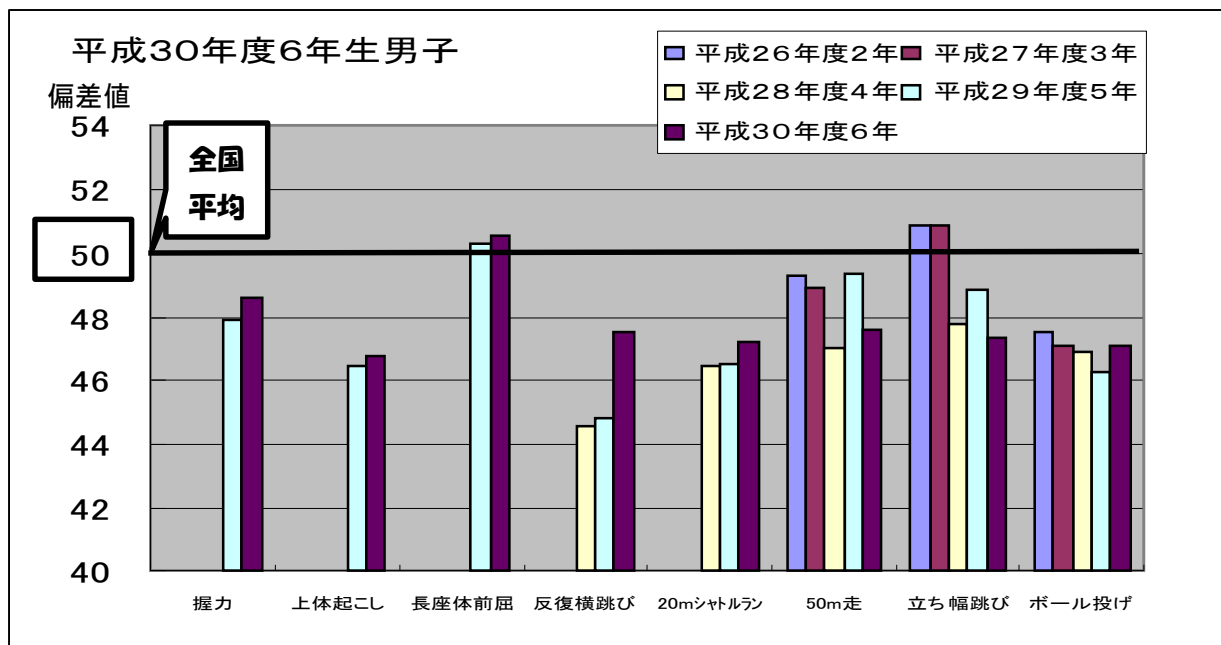
昨年度から実施の「反復横跳び」では、男子女子ともやや結果が伸びていますが、全国平均値との差はまだ開いています。

「ボール投げ」は、全国平均値と5年間あまり縮まっていないので、依然として課題が続いています。

※「握力」「上体起こし」「長座体前屈」は5年生から実施する種目です。

6年(小6)

各種目結果の学年別経年比較

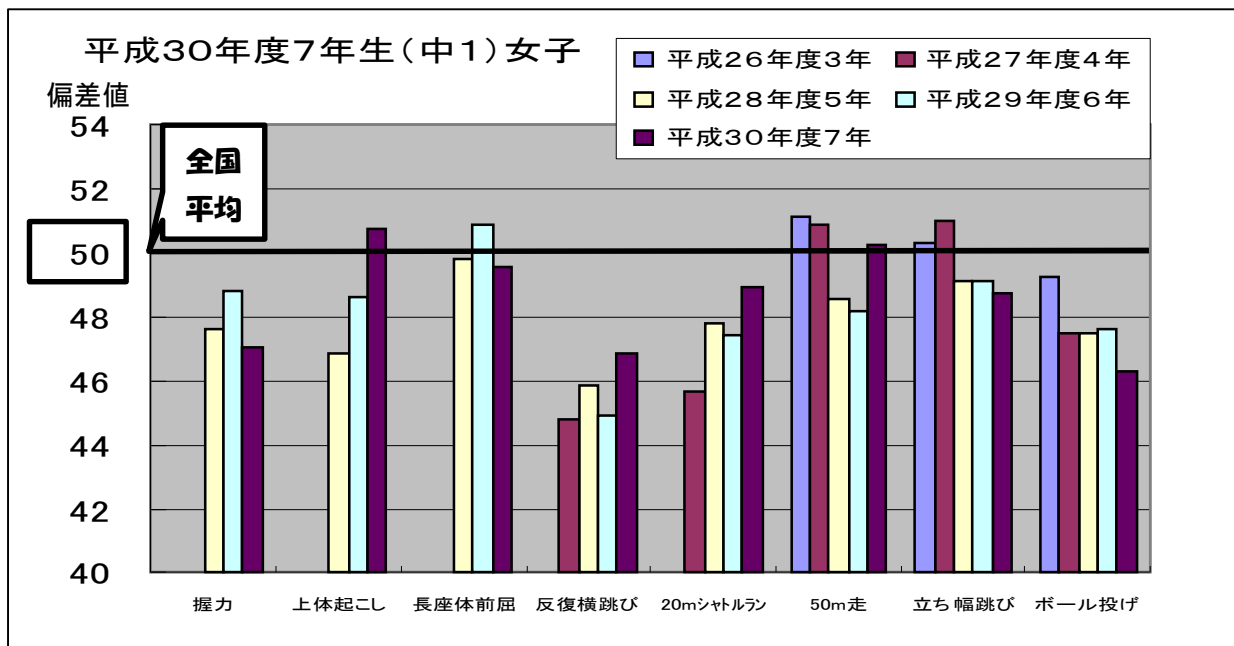
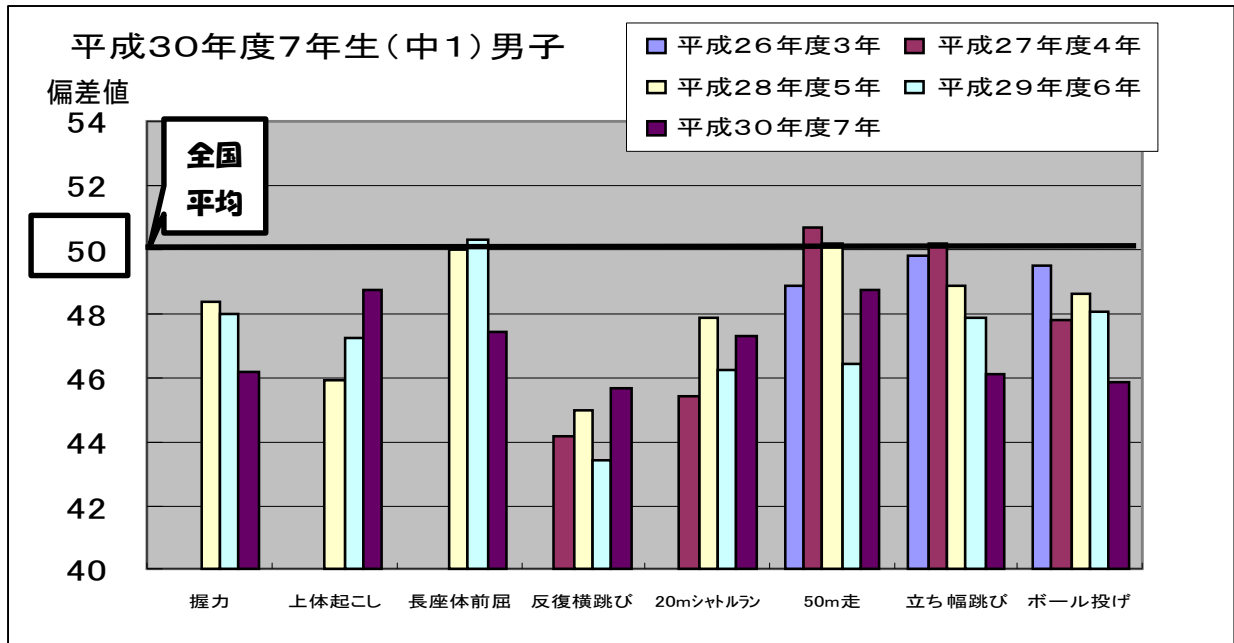


男子女子とも「長座体前屈」は、全国平均値を上回りました。男子女子とも「上体起こし」「反復横跳び」の結果が良くなっています。女子においては、「反復横跳び」において、全国平均値まであと少しです。しかし、男子女子とも、「長座体前屈」以外の7種目において全国平均値を下回っています。

特に、男子女子とも「ボール投げ」においては、全国平均値と大きな開きがあり、大きな課題です。

7年(中1)

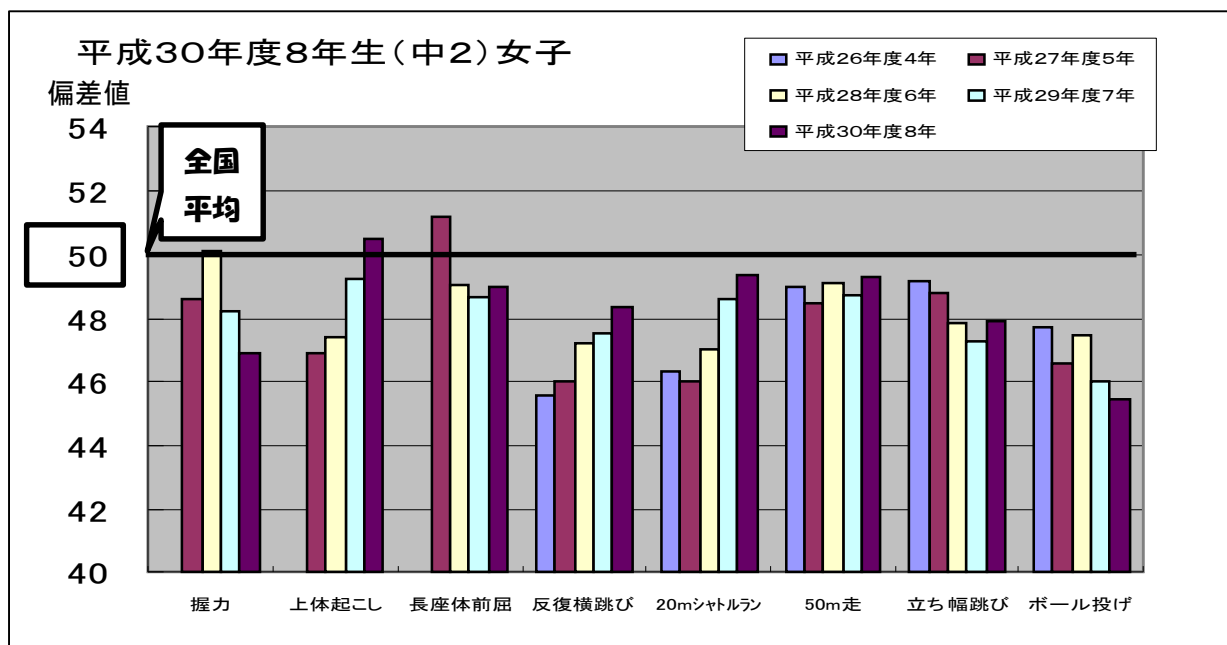
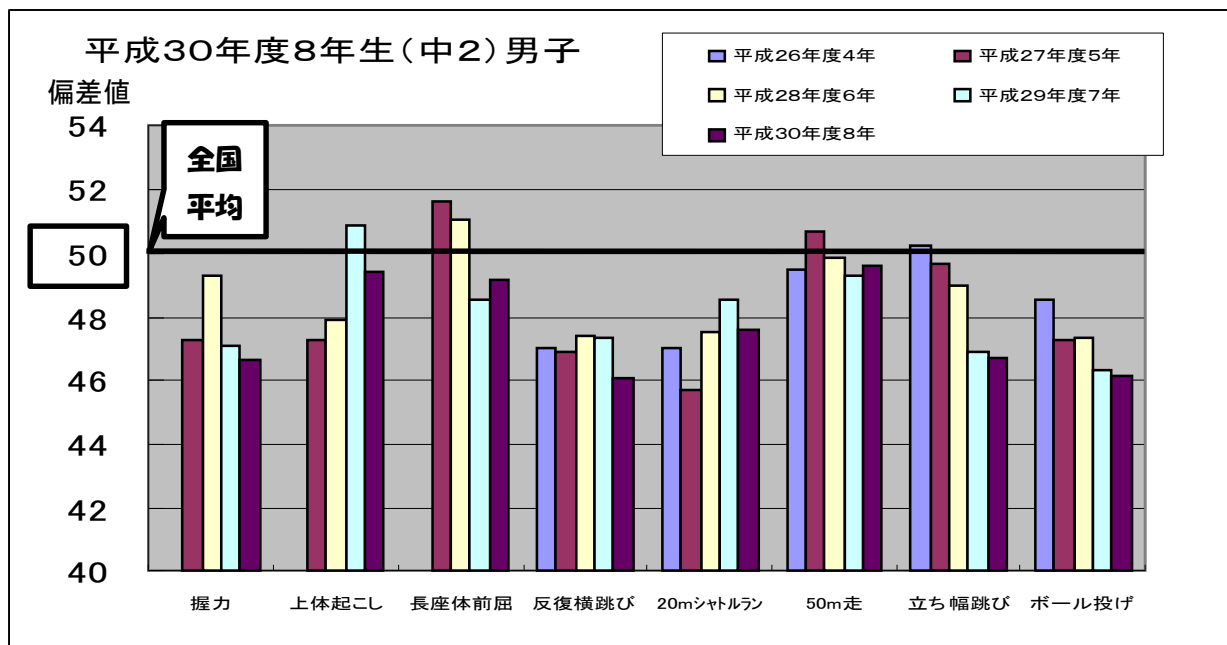
各種目結果の学年別経年比較



女子の「上体起こし」「50m走」は、全国平均値を上回りました。
 中学生になり、男子の「上体起こし」「反復横跳び」と女子の「反復横跳び」「20mシャトルラン」では結果に伸びが見られますが、その他の種目においては、6年生のときの結果と比較すると、下回っている種目が多く見られます。
 特に、「ボール投げ」は、男子女子ともに依然全国平均値との差が見られ課題といえます。
 また、男子女子とも「長座体前屈」「立ち幅跳び」など低下傾向な種目もあります。

8 年(中 2)

各種目結果の学年別経年比較

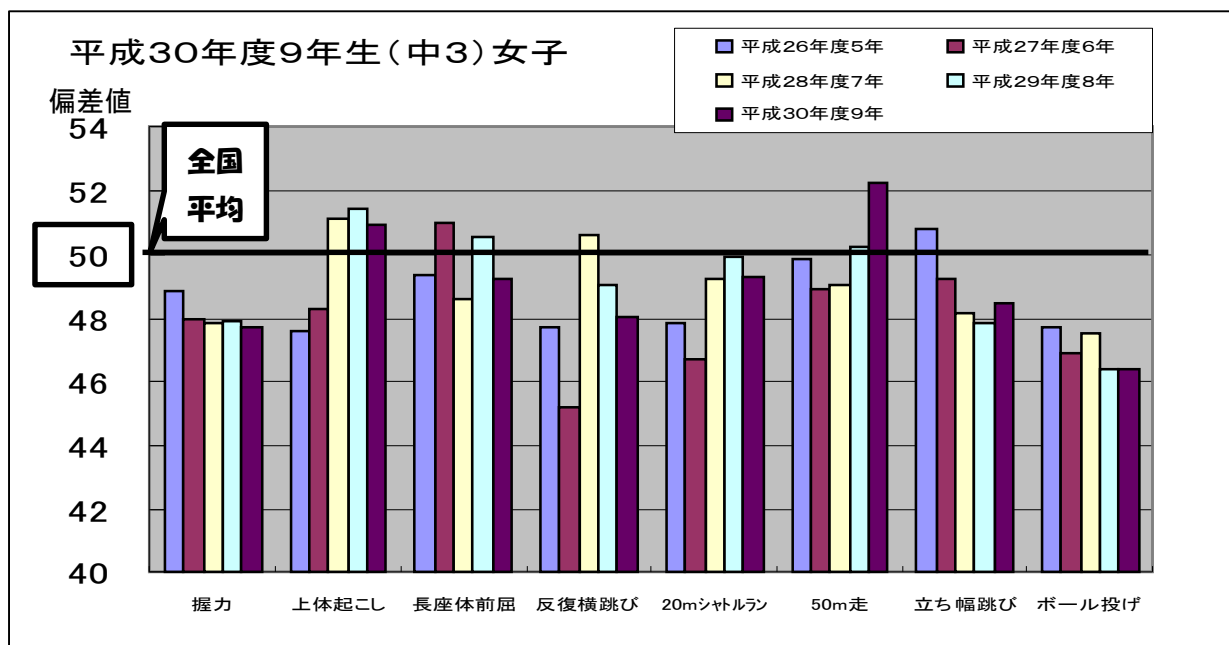
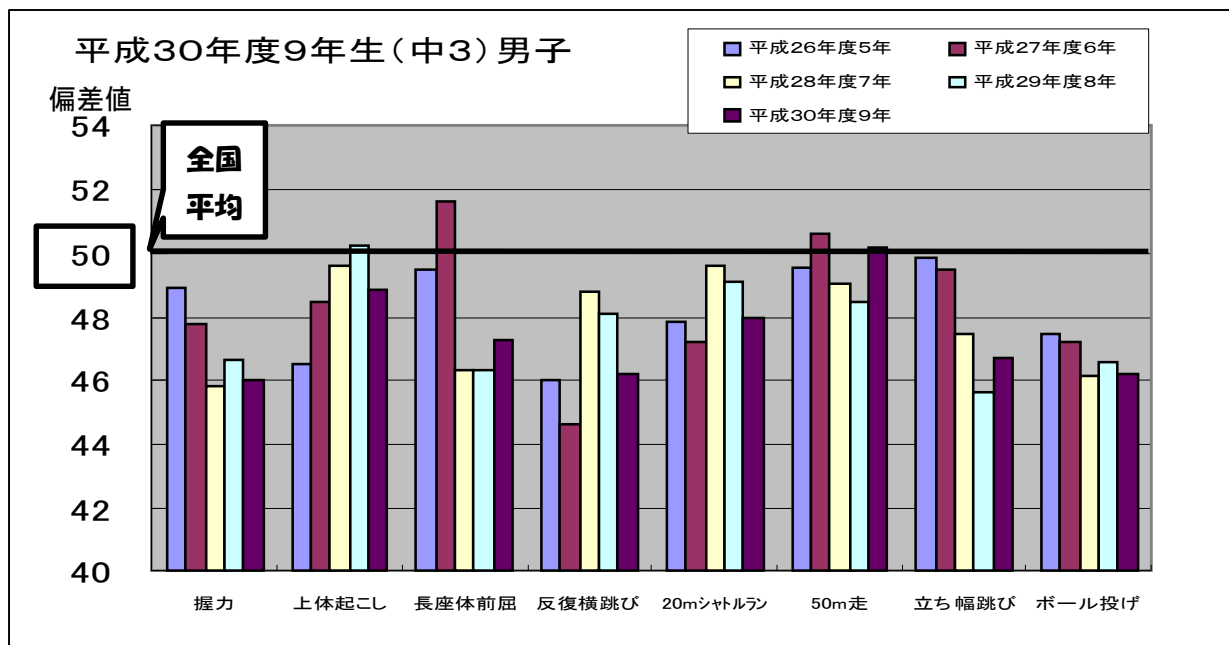


女子の「上体起こし」は、全国平均値を上回りました。女子は、「反復横跳び」「20mシャトルラン」「50m走」の結果に伸びが見られます。

しかし、男子は7年生のときの結果と比較すると、「長座体前屈」「50m走」以外の種目の結果が下回っているため、依然として課題がみられます。

9 年(中 3)

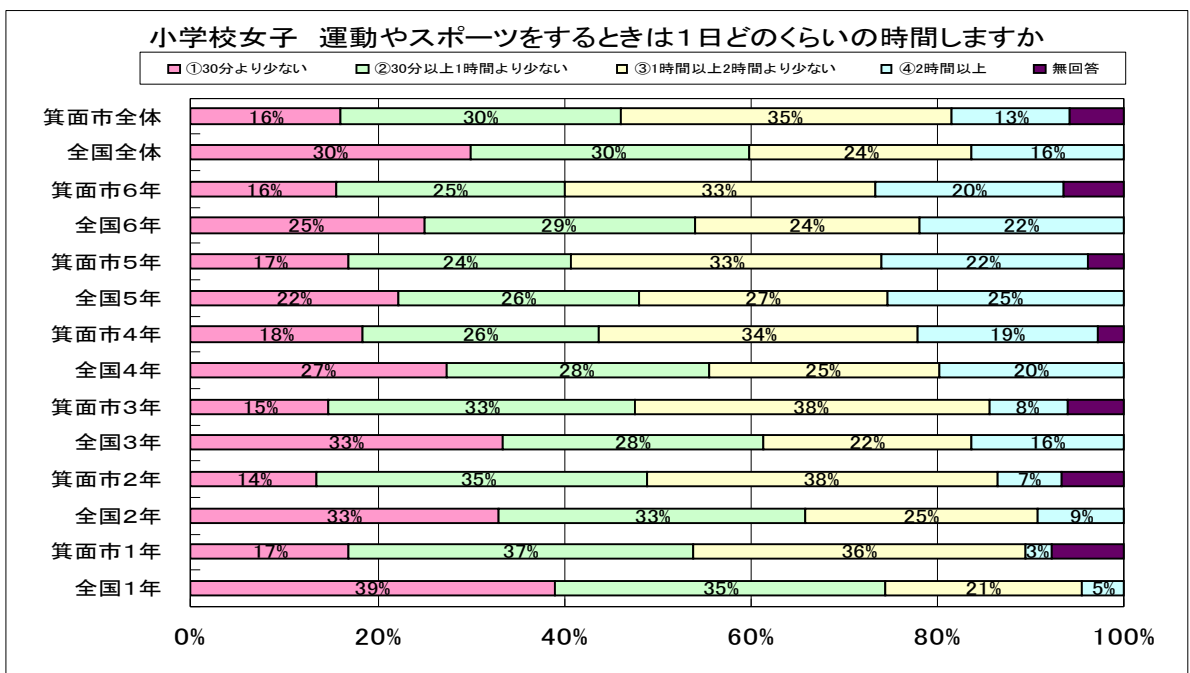
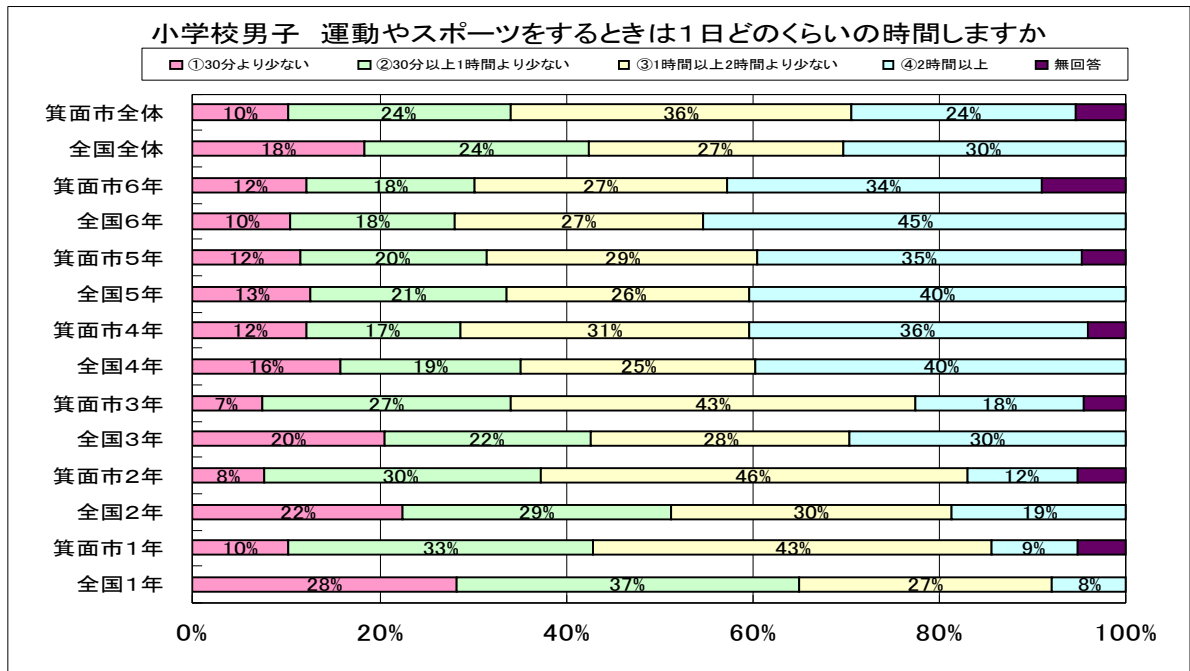
各種目結果の学年別経年比較



男子女子の「50m走」、女子の「上体起こし」で、全国平均値を上回りましたが、男子女子とも他の種目においては、全国平均値を下回りました。

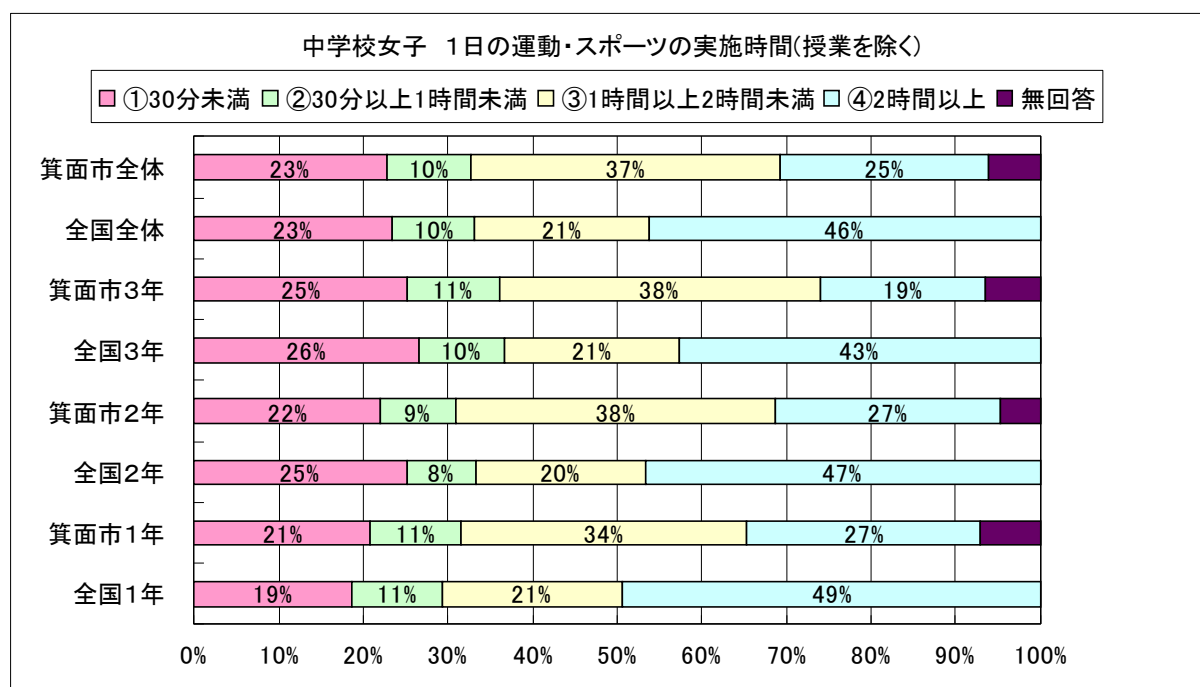
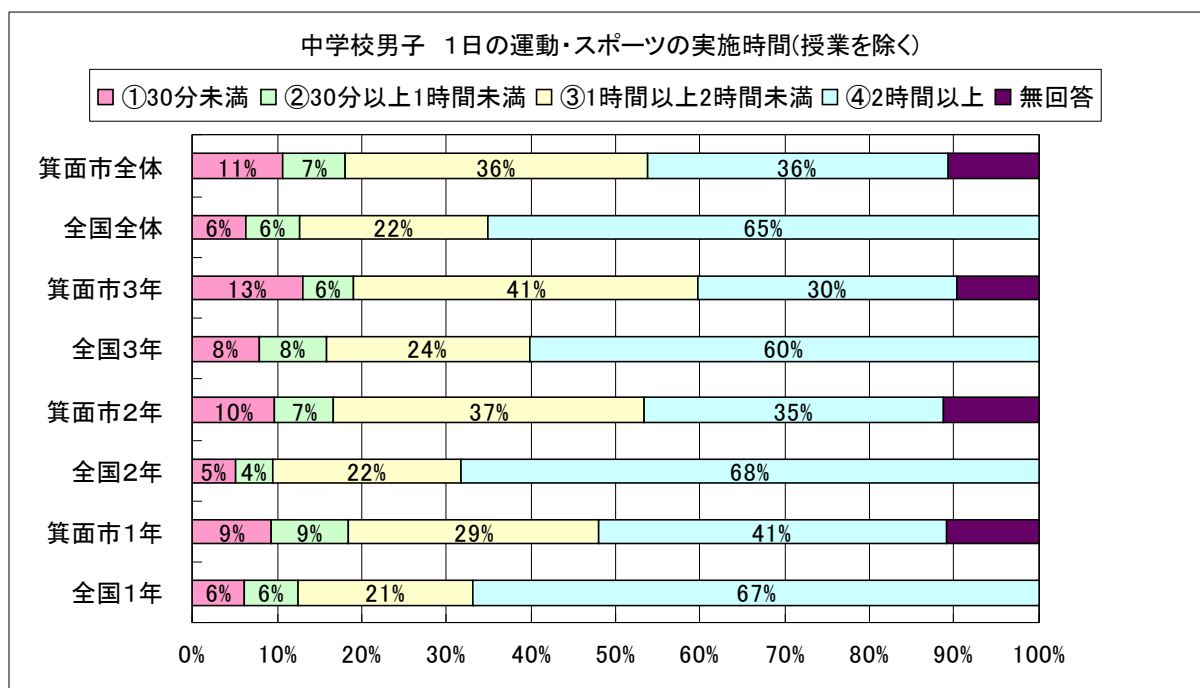
昨年度と比較すると、男子は3種目で、女子は2種目で結果に伸びが見られました。しかし、男子女子とも7年生、8年生の時に課題であった「握力」「ボール投げ」は依然として全国平均値とは大きな差が見られました。

平成30年度 運動習慣等調査の結果から



小学生では、箕面市全体で「1日に運動やスポーツをする時間が30分より少ない」子どもの割合は全国より少なく、特に1～3年生の低学年で低い割合となっています。6年生の男子は全国の6年生と比較して割合が高いものの、昨年度の割合より減少し、改善が見られます。

また、「1時間以上運動やスポーツをする時間がある」子どもの割合は、男子の1～4年生、女子の全学年では全国と比べて多くなっており、日頃から始業前や休み時間や放課後に体を動かし、運動やスポーツに親しんでいることがわかります。しかし、高学年になるにつれ、運動やスポーツに親しむ時間が減少していく傾向があり、5・6年生男子では、全国に比べ低くなっています。



中学男子では、1日に運動やスポーツをする時間が「30分未満」の子どもたちの割合が、昨年度に比べて減り、少しずつ運動に親しむ時間が増えてきています。しかし、「2時間以上運動やスポーツをする」子どもたちの割合でも、全国を大きく下回っています。

中学女子でも同様に、1日に運動やスポーツをする時間が「30分未満」の子どもたちの割合に改善傾向は見られますが、「2時間以上運動やスポーツをする」子どもたちの割合では、全国を大きく下回っています。

中学生全体として、運動やスポーツを実施する時間が、全国に比べて少ない傾向にあります。

平成30年度箕面市体力・運動能力、運動習慣等調査まとめ

すすんで運動に親しむ子どもを学校・家庭・地域で育てよう！

今年度の「体力・運動能力、運動習慣等調査」において、全国平均との比較では、箕面市の小中学生の体力は、各学年で依然として下回っている種目がほとんどです。しかし、学年や男女別によっては、徐々に伸びている種目も見られます。また、「運動習慣や健康意識についての調査」から、以下のこともわかりました。

- ・小学生は「**1日の運動時間**が1時間以上」が4年生までは**全国と比較しても多い**！
しかし、5年生から中学生にかけて「**1日の運動時間**」が、**全国に比べて少ない**！
- ・「**運動やスポーツは大切**」という**意識をもっている**小中学生は、**体力合計点が高い**！
- ・「**体育の授業で運動のコツやポイントをつかむことができる**」小中学生は**体力合計点が高い**！



学校では主体的に運動できる取組を実施！

各学校では、体力調査の結果から見える課題をふまえ、体育科の授業改善を進め、体力向上に取り組んでいます。各学年の経年比較からもその結果が表れている種目もあります。今後も今回の体力調査の結果を受けて、いろいろな運動体験や機会も増やしつつ、さらに一人ひとりの子どもたちの体力向上をめざしていきます。また、運動習慣等調査と体力合計点の関係で、運動のコツやポイントをつかむことができる子どもたちは体力合計点が高いことから、子どもたち自身が主体的に学ぶ姿勢を大切に、自分自身で考え、いろいろ試しながら「**わかった！**」「**できた！**」「**たのしい！**」と感じられる体育の授業を実施していきます。ただし、学校で運動やスポーツに取り組める時間には限りがありますので、帰宅後や休みの日などに、家庭や地域の中でも運動する機会の確保が大切となってきます。

子どもといっしょに！ 大人もすすんで 運動やスポーツを楽しみましょう！



運動やスポーツに興味関心があり、「**好き！楽しい！**」と思える児童生徒は、意欲的に取り組んでいます。2020年東京オリンピック・パラリンピック関連の話題が増えてきました。運動やスポーツに意欲を持たせるには、ご家族と一緒に運動したり、スポーツを観戦したりすることにより、子どもの興味・関心が高まり、積極的に運動・スポーツに取り組む姿勢が生まれます。また、各地域でおこなわれている運動・スポーツの行事に積極的に参加していただき、子どもたちと一緒にぜひ参加しましょう！

さらに、就学前からさまざまな「運動遊び」に親しませることが、それ以降の**体力向上**につながるということがわかっています。各中学校区内では、幼稚園や保育所とも連携をおこない、体力向上の取組を進めていきます。